

在宅介護実態調査報告書

～次期「桑名市地域包括ケア計画」の策定に向けて～

平成29年 3月

桑 名 市

目次

I	調査の概要	
1	調査の目的	1
2	調査方法等	1
3	回収結果	1
4	集計分析にあたって	1
II	調査結果の分析	
1	基本属性	2
(1)	性別・年齢	2
(2)	世帯類型	3
(3)	要介護度	4
(4)	認知症日常生活自立度	5
2	介護保険サービス等	7
(1)	介護保険サービスの利用状況	7
(2)	利用しているサービス	8
(3)	利用しているサービスの組み合わせ	9
(4)	要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	11
(5)	認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	12
(6)	施設等への入所・入居の検討状況	13
(7)	サービス利用の組み合わせと施設等への入所・入居の検討状況	14
(8)	サービスの利用回数と施設等への入所・入居の検討状況	16
(9)	要介護度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況	19
(10)	認知症自立度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況	20
(11)	介護者の就労状況別の施設等への入所・入居の検討状況	21
3	介護者の状況	22
(1)	家族・親族による介護の頻度	22
(2)	要介護度別・世帯類型別の家族・親族による介護の頻度	23
(3)	主な介護者の年齢	24
(4)	介護を理由とした離職	25
(5)	介護者が不安に感じる介護等	26
(6)	サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等	32
(7)	サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等	34
(8)	就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等	40
(9)	主な介護者の勤務形態	41
(10)	働き方の調整	42
(11)	就労継続の見込み	44
(12)	サービス利用の組み合わせと就労継続の見込み	45
III	調査結果のまとめと考察	
1)	世帯類型にかかわらず在宅生活が継続できる支援	46
2)	介護者の負担軽減を念頭に置いた支援	47
3)	仕事と介護の両立支援	48
【資料】	調査票	49

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、平成29年度中に見直しを行う「桑名市地域包括ケア計画（第7期介護保険事業計画・第8期老人福祉計画）」の基礎資料を得るため、要支援・要介護認定を受け、居宅で暮らしている人およびその介護をしている人から、家族介護の実態、施設入所の検討状況、家族介護者就労状況等をたずねたものです。

なお、この調査は、厚生労働省が示す「在宅介護実態調査」の内容を基本として実施し、この結果と認定データ（認定調査結果の情報等）を関連付け、分析しました。

2 調査方法等

調査対象者	調査方法	調査期間
要支援・要介護の認定を受けて、居宅で暮らしている人	認定調査員による聞き取り調査	平成28年12月～平成29年3月

3 回収結果

回収数	有効回答数
324	294

(注) 無効票は、入所・入院中、認定データが得られなかったもの等

4 集計分析にあたって

- (1) 回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。
- (2) 回答率（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 性別、年齢、要介護度、サービスの利用実績等については、認定データ等を用いています。

Ⅱ 調査結果の分析

1 基本属性

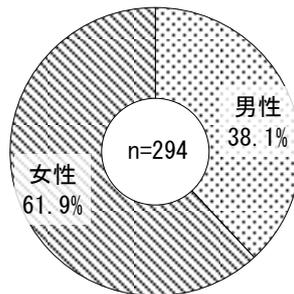
(1) 性別・年齢

調査対象者（要介護者）の性別は、男性が38.1%、女性が61.9%と女性が男性を23.8ポイント上回っています（図表2-1）。

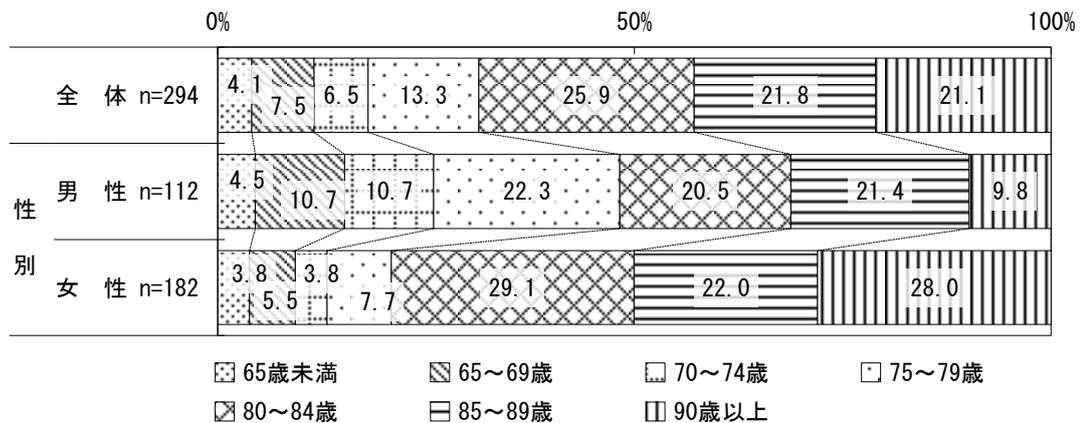
調査対象者の年齢は、65歳未満の第2号被保険者が4.1%、75歳未満の前期高齢者が14.0%、75歳以上の後期高齢者が82.1%となっています。

性別にみると、後期高齢者は女性が86.8%、男性が74.0%と10ポイント以上の差があります（図表2-2）。

図表2-1 回答者（要介護者）の性別



図表2-2 回答者（要介護者）の年齢



(2) 世帯類型

調査対象者の世帯類型は、子どもの家族との同居世帯などである「その他」の世帯が56.5%を占めていますが、「夫婦のみ世帯」が28.6%、単身世帯が14.6%あります。

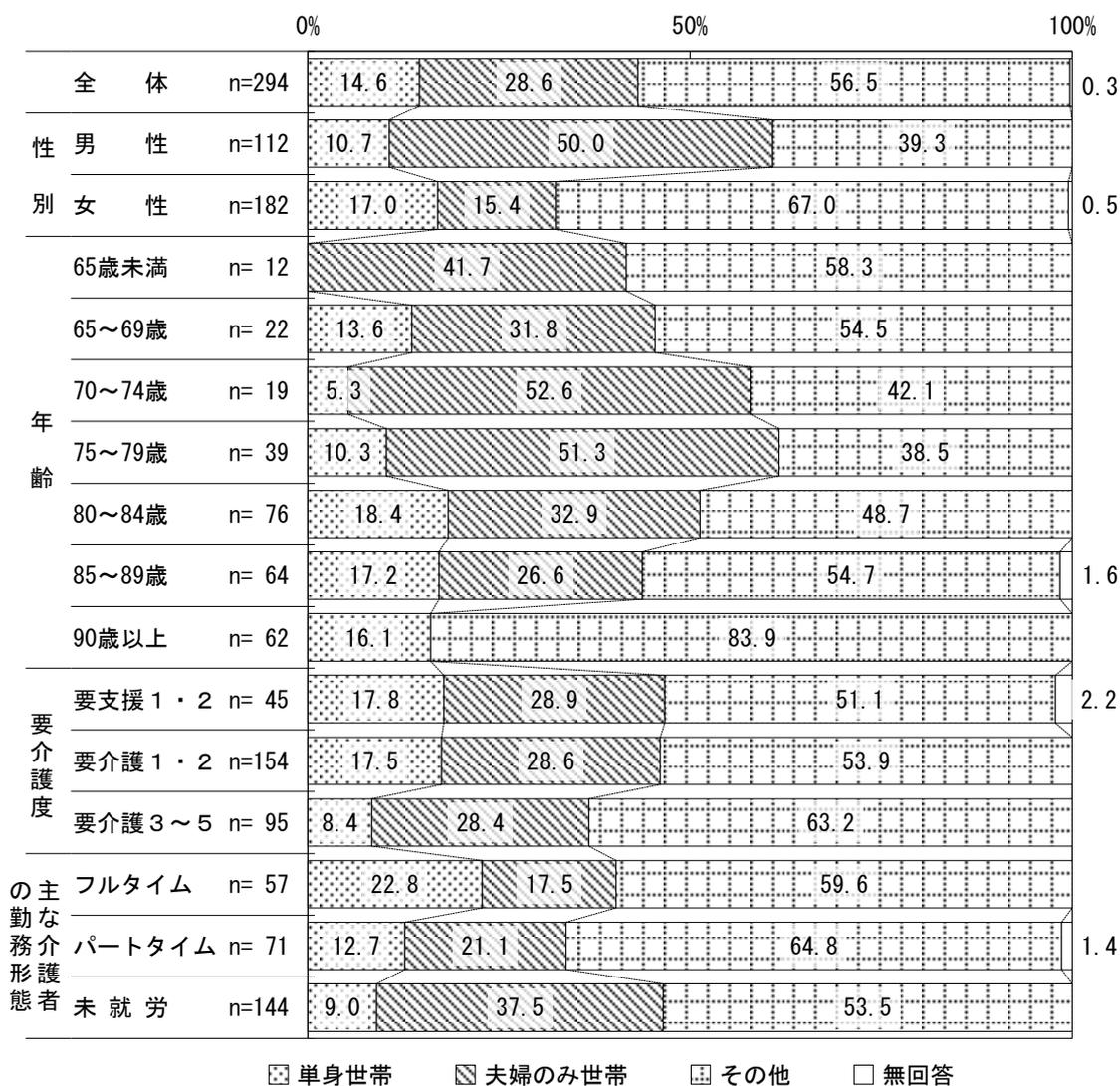
性別にみると、「単身世帯」は女性が男性より6.3ポイント高く、「夫婦のみの世帯」は男性が女性より34.6ポイント高くなっています。

年齢別にみると、70歳未満および80歳以上では「その他」が、70歳代では「夫婦のみの世帯」が最も高くなっています。

要介護度別にみると、重度化にしたい「単身世帯」および「夫婦のみ世帯」は低くなっています。

主な介護者の勤務形態別にみると、フルタイムは「単身世帯」、パートタイムは「その他」、未就労は「夫婦のみ世帯」が他の家族類型に比べ高くなっています。

図表 2-3 世帯類型



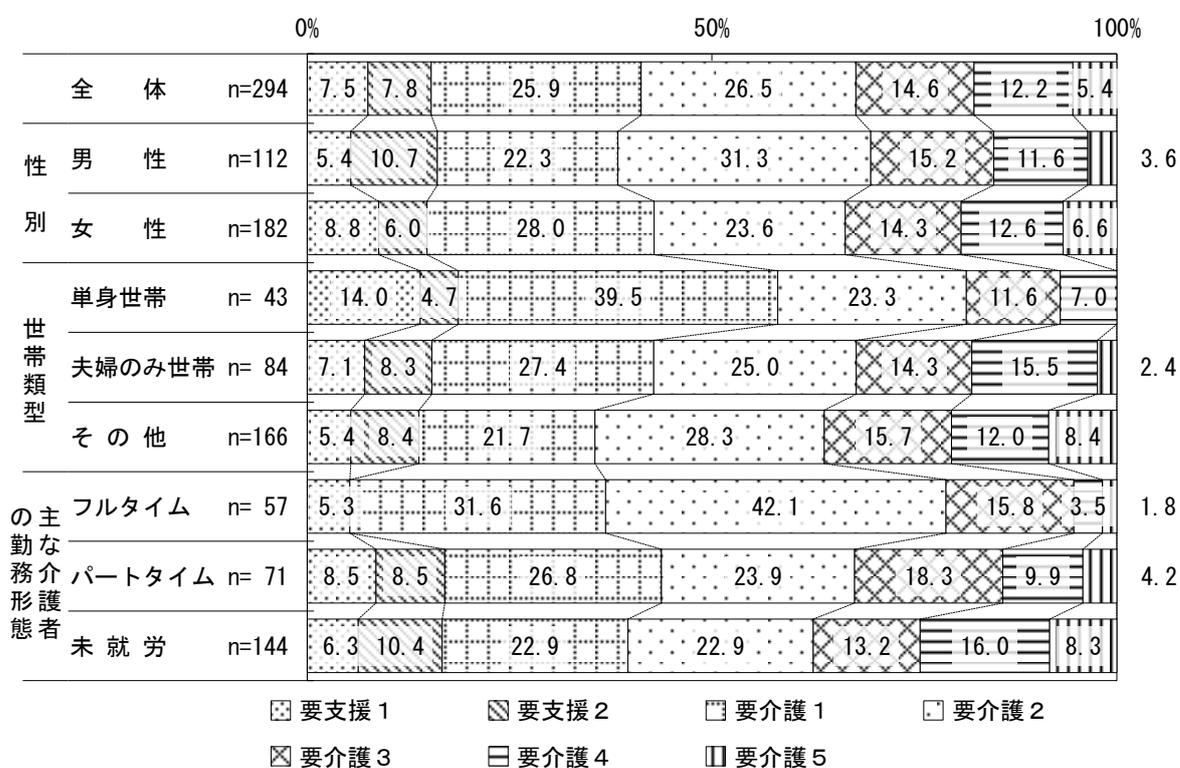
(3) 要介護度

調査対象者の要介護度は、「要介護2」が26.5%と最も高く、次いで「要介護1」が25.9%、「要介護3」が14.6%の順となっています。

世帯類型別にみると、単身世帯に「要介護5」はなく、軽度の占める割合が高くなっています。「要介護3」「要介護4」「要介護5」の合計は、単身世帯が18.6%、夫婦のみ世帯が32.2%、その他が36.1%です。

主な介護者の勤務形態別にみると、フルタイムでは「要介護1」および「要介護2」の割合が73.7%と非常に高くなっています。「要介護3」「要介護4」「要介護5」の合計は、フルタイムが21.1%、パートタイムが32.4%、未就労が37.5%です。

図表2-4 要介護度



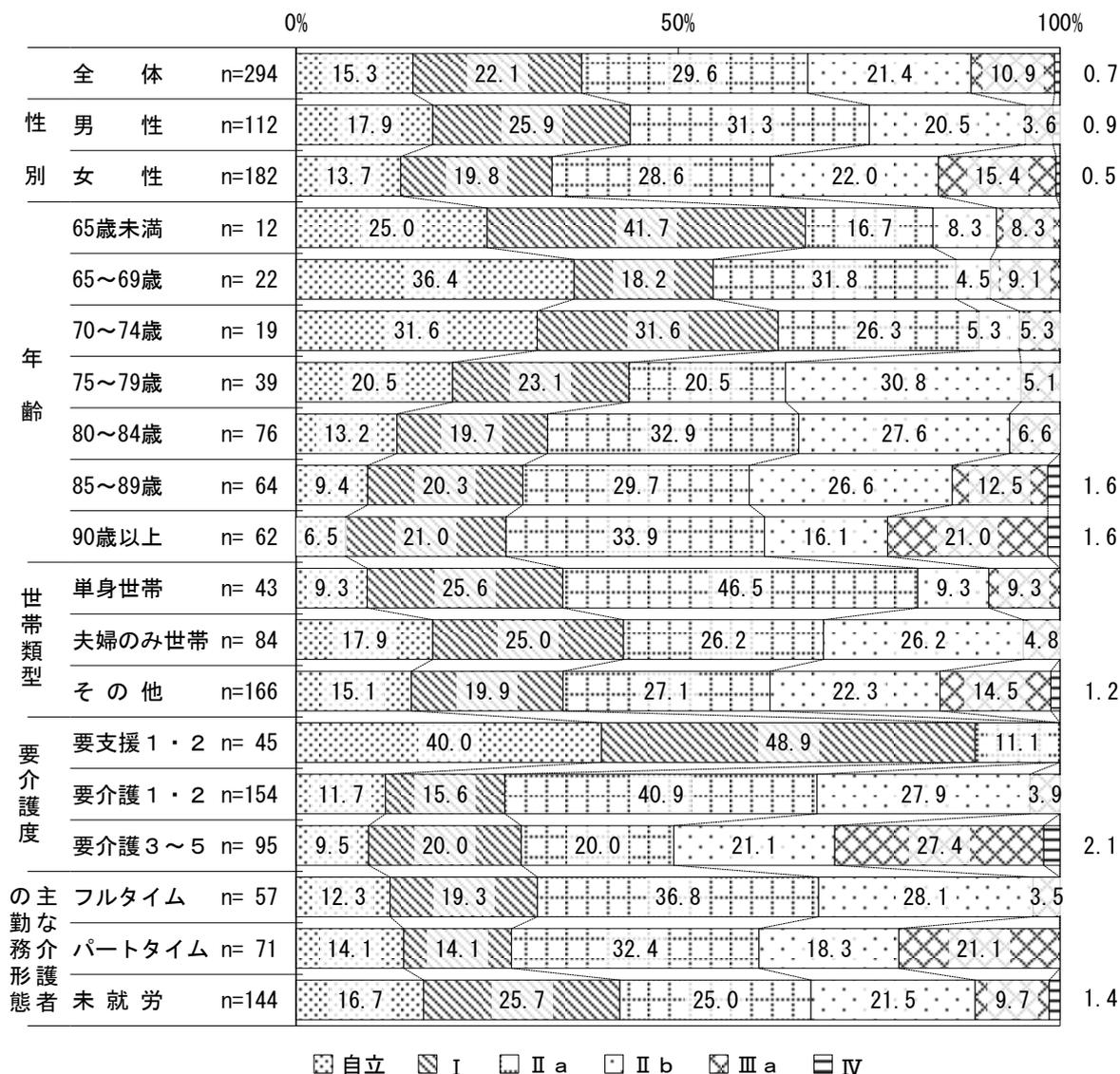
(4) 認知症日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度（以下「認知症自立度」と言います。）判定基準の<Ⅱa以上>を認知症とみると、全体では62.6%となります。<Ⅱa以上>は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあり、90歳以上では72.6%となっています。また、単身世帯の65.1%、夫婦のみ世帯の57.2%が<Ⅱa以上>に該当します。

要介護度別にみると、要支援1・2では「自立」および「Ⅰ」が90%近くを占めています。要介護1・2では「Ⅱa」が40%以上を占め、要介護3～5では「Ⅲa」が最も高くなっています。

主な介護者の勤務形態別にみると、<Ⅱa以上>が最も高いのはパートタイムで、次いでフルタイム、未就労の順となっています。

図表2-5 認知症日常生活自立度



※ⅢbおよびMの該当者はありません。

【参考】認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

レベル	判断基準
I	「何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態」基本的には在宅で自立した生活が可能なレベルです。
II a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外で多少見られても、誰かが注意していれば自立できる状態」
II b	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内で見られるようになるが、誰かが注意していれば自立できる状態」
III a	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態」
III b	判断基準「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間にも見られるようになり、介護を必要とする状態」
IV	「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする状態」
M	「著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする状態」

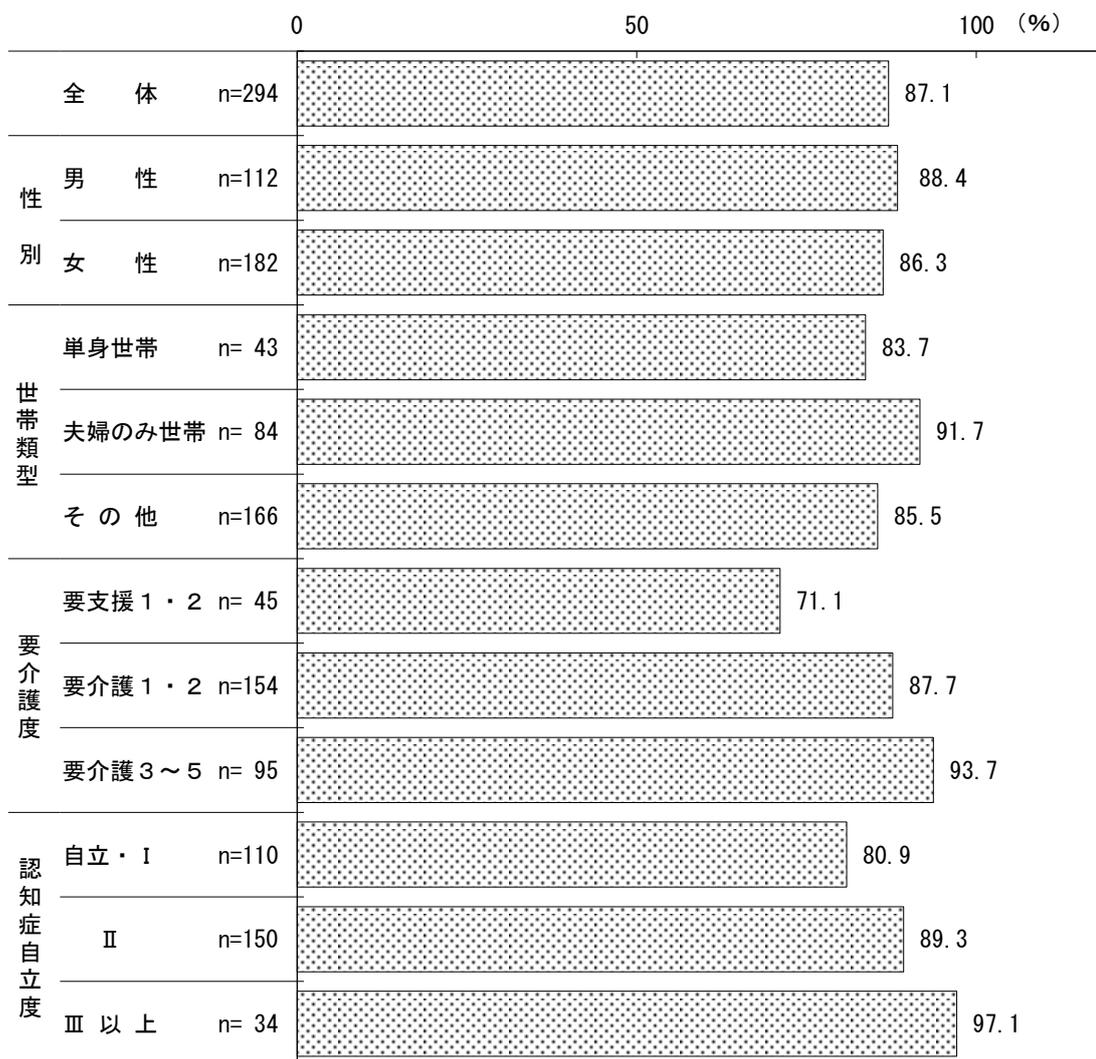
2 介護保険サービス等

(1) 介護保険サービスの利用状況

現在、住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用率は87.1%です。

世帯類型別にみると、夫婦のみの世帯では90%を超えています。要介護度別および認知症自立度別では、両者とも重度化にしたがい高くなっており、特に認知症自立度のランクⅢ以上では97.1%となっています。

図表 2-6 介護保険サービスの利用状況



(2) 利用しているサービス

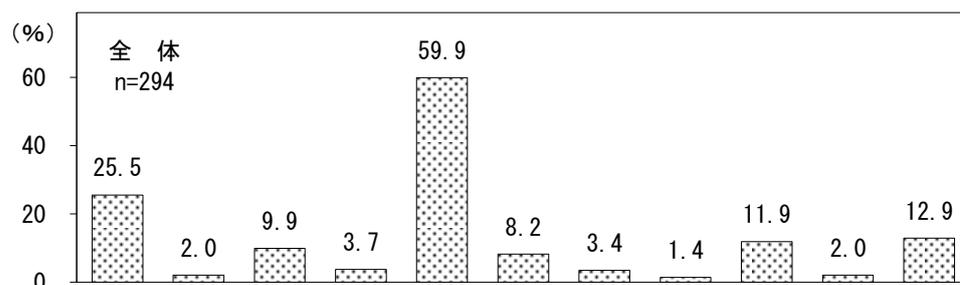
介護保険サービスの利用状況を見ると、「通所介護」が59.9%と突出して高く、次いで「訪問介護」が25.5%、「ショートステイ」が11.9%、「訪問看護」が9.9%などの順となっています。

世帯類型別にみると、単身世帯では「訪問介護」が40%近い率を示しています。また、夫婦のみ世帯では単身世帯と同様に「訪問介護」が33.3%と高いのに加え、通所系サービスが比較的高くなっている一方、「ショートステイ」が若干低くなっています。

要介護度別にみると、「訪問リハビリ」、「通所リハビリ」および「小規模多機能型居宅介護」以外は重度化にしたがい利用率が高くなっています。

認知症自立度別にみると、「訪問介護」、「訪問リハビリ」および「通所リハビリ」以外のサービスは重度化にしたがい利用率が高くなる傾向にあります。

図表 2-7 利用しているサービス（複数回答）



区分		n	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護	ショートステイ	居宅療養管理指導	未利用
性別	男性	112	28.6	0.9	12.5	5.4	58.0	10.7	3.6	0.9	8.0	0.9	11.6
	女性	182	23.6	2.7	8.2	2.7	61.0	6.6	3.3	1.6	14.3	2.7	13.7
世帯類型	単身世帯	43	39.5	-	11.6	2.3	46.5	4.7	4.7	2.3	16.3	2.3	16.3
	夫婦のみ世帯	84	33.3	2.4	13.1	2.4	65.5	11.9	1.2	1.2	8.3	-	8.3
	その他	166	18.1	2.4	7.8	4.8	60.2	7.2	4.2	1.2	12.7	3.0	14.5
要介護度	要支援1・2	45	6.7	-	2.2	4.4	57.8	8.9	-	-	-	-	28.9
	要介護1・2	154	25.3	1.3	5.8	4.5	59.1	8.4	4.5	1.3	8.4	1.3	12.3
	要介護3～5	95	34.7	4.2	20.0	2.1	62.1	7.4	3.2	2.1	23.2	4.2	6.3
認知症自立度	自立・I	110	24.5	0.9	5.5	3.6	52.7	10.0	1.8	-	7.3	1.8	19.1
	II	150	26.7	2.0	11.3	4.7	62.0	8.0	4.0	1.3	12.0	0.7	10.7
	III以上	34	23.5	5.9	17.6	-	73.5	2.9	5.9	5.9	26.5	8.8	2.9

(3) 利用しているサービスの組み合わせ

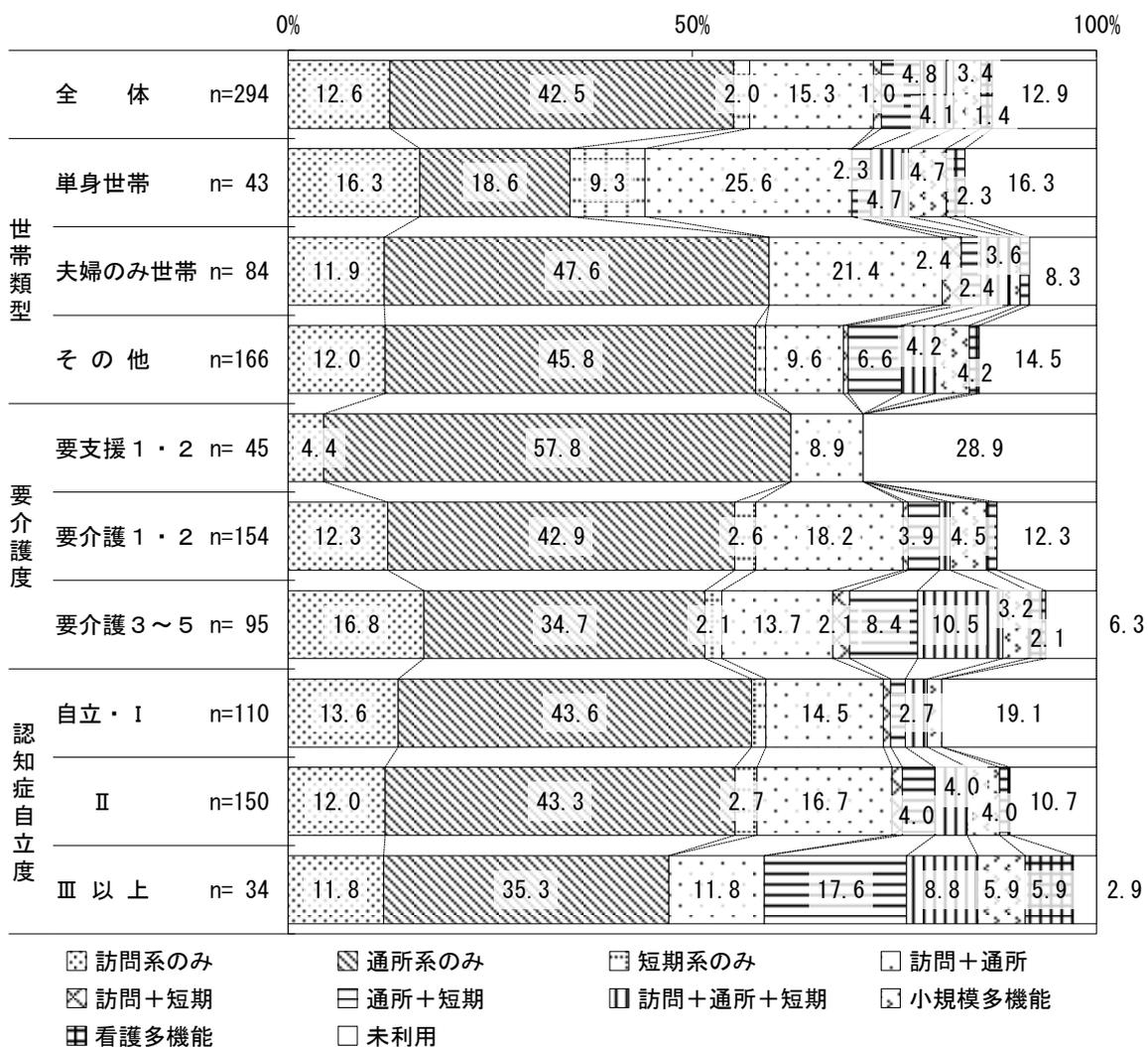
利用しているサービスの組み合わせをみると、「通所系のみ」が42.5%と最も高く、次いで「訪問+通所」の組み合わせが15.3%、「訪問系のみ」が12.6%などとなっています。

世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯およびその他では「通所系のみ」が45%以上を占めていますが、単身世帯では「訪問+通所」が25.6%と最も高くなっています。また、夫婦のみ世帯でも「訪問+通所」が20%を超えています。

要介護度別にみると、重度化にしたがい「訪問系のみ」が上昇し、「通所系のみ」が低下しています。また、要介護3～5ではショートステイを組み合わせたパターンが高くなっています。

認知症自立度別にみると、要介護度と同様に重度化にしたがいショートステイを組み合わせた「通所+短期」や「訪問+通所+短期」が高くなっています。

図表 2-8 利用しているサービスの組み合わせ



※全体以外の2%未満の数値は表記を省略

利用しているサービスの組み合わせを簡略化してみると、「通所系・短期系のみ」が49.3%を占め、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.2%などとなっています。

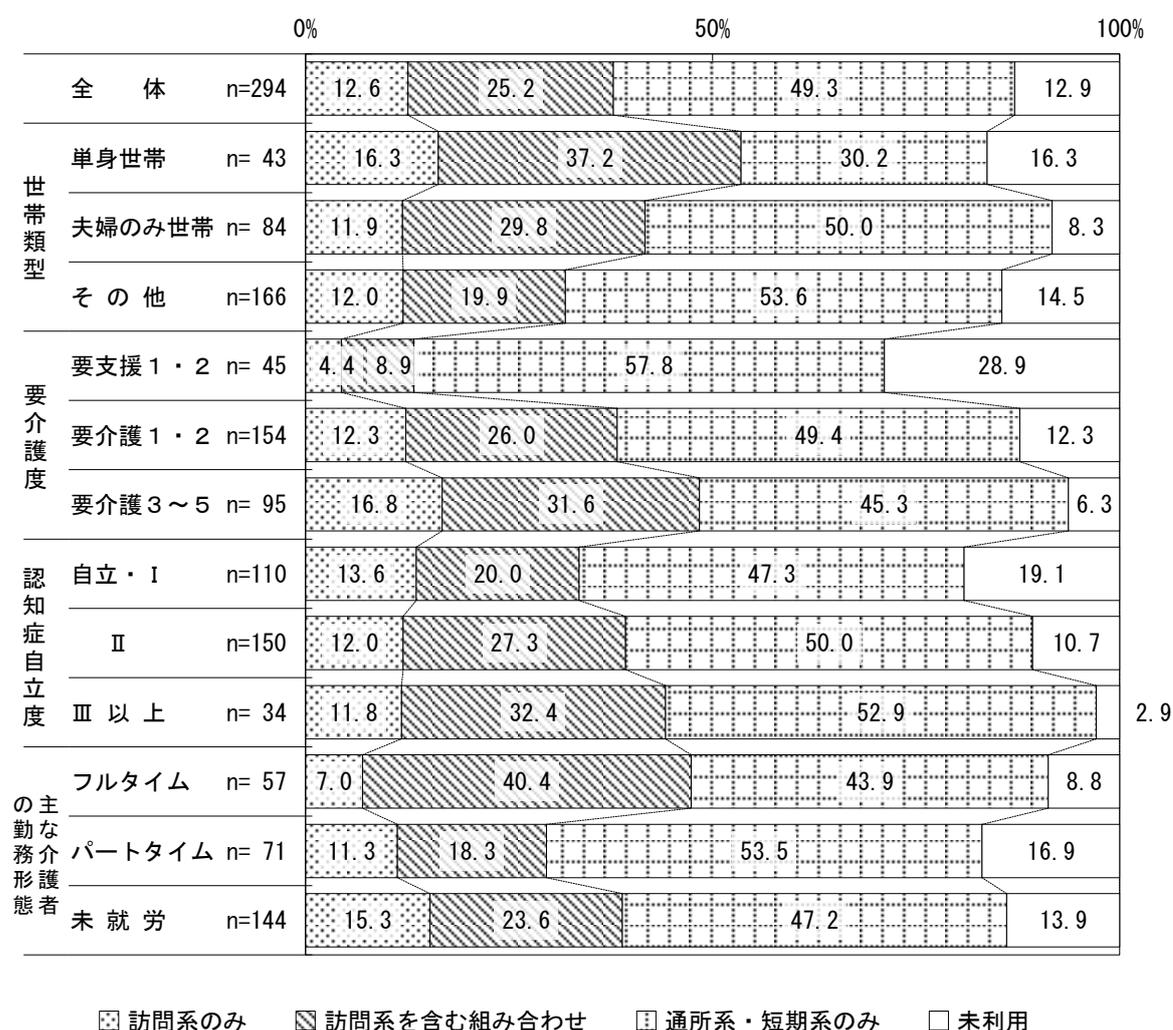
世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯およびその他では「通所系・短期系のみ」が50%以上を占めています。一方、単身世帯では「訪問系を含む組み合わせ」が37.2%と最も高く、「訪問系のみ」との合計が50%を超えています。

要介護度別にみると、重度化にしたがい「訪問系のみ」および「訪問系を含む組み合わせ」が上昇します。

認知症自立度別にみると、重度化にしたがい「訪問系を含む組み合わせ」および「通所系・短期系のみ」が上昇し、「訪問系のみ」が低下しています。

主な介護者の就労形態別にみると、フルタイムでは「訪問系を含む組み合わせ」、パートタイムでは「通所系・短期系のみ」、未就労では「訪問系のみ」が、それぞれ他の就労形態に比べ高くなっています。

図表 2-9 利用しているサービスの組み合わせ（簡略化）

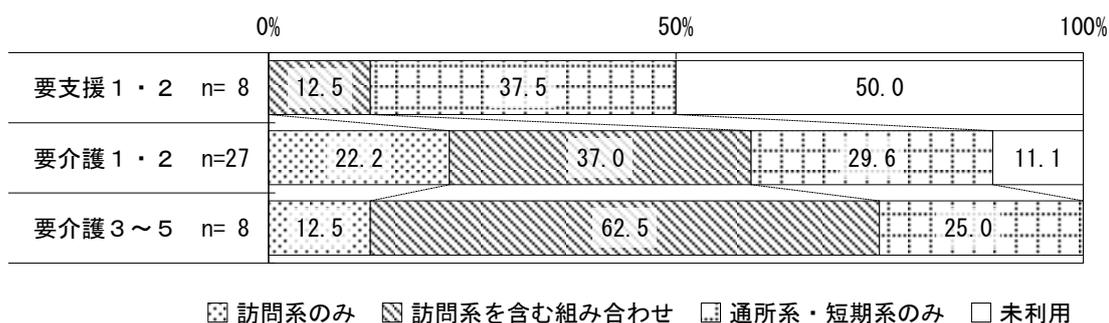


(4) 要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

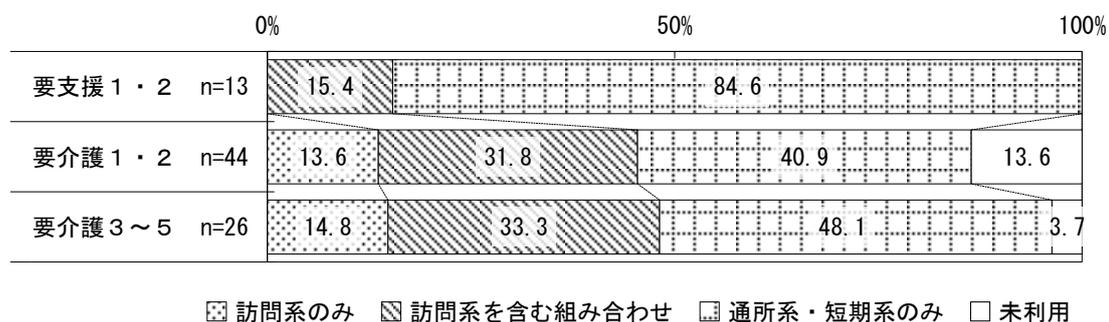
サービス利用の組み合わせを、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、要介護度の重度化にしたがい「訪問系のみ」および「訪問系を含む組み合わせ」が高くなる傾向にあります。特に単身世帯の〈要介護3～5〉では「訪問系を含む組み合わせ」が60%を超えています。

図表2-10 要介護度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

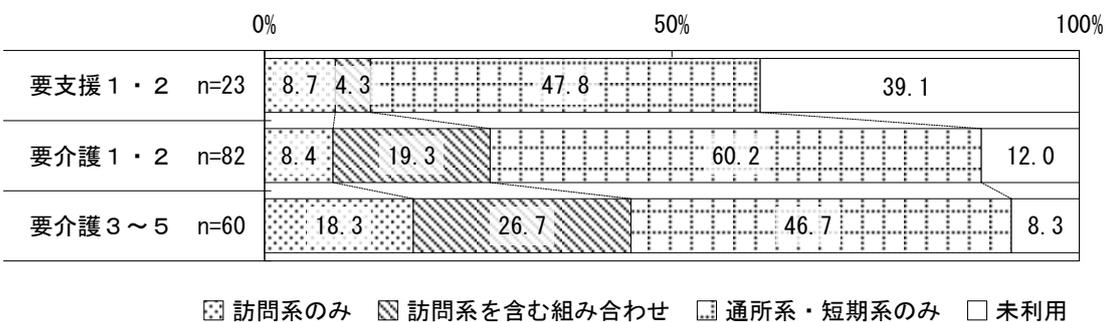
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



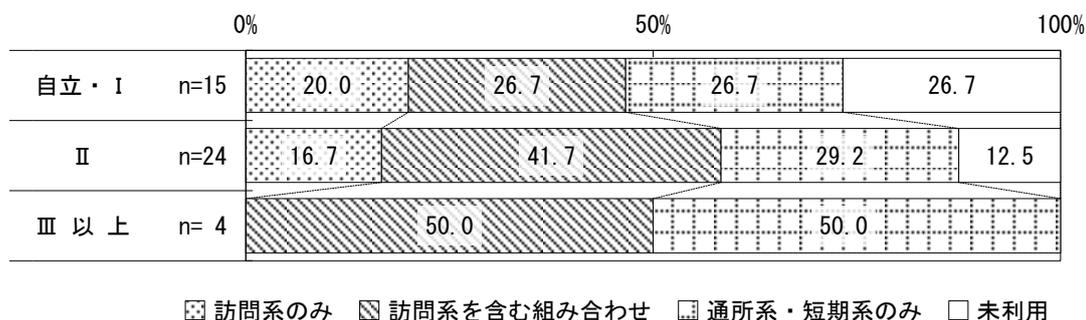
※無回答を除く

(5) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

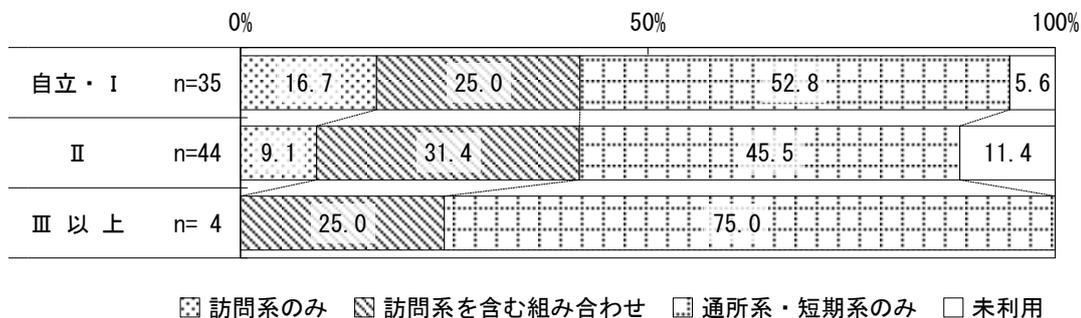
サービス利用の組み合わせを、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、認知症自立度別にみると、単身世帯および夫婦のみ世帯では、認知症の重度化したがい「通所系・短期系のみ」が高くなり、「訪問系のみ」が低下する傾向にあります。また、その他では、認知症自立度にかかわらず「通所系・短期系のみ」が50%前後の高い率を示しています。

図表 2-11 認知症自立度別・世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

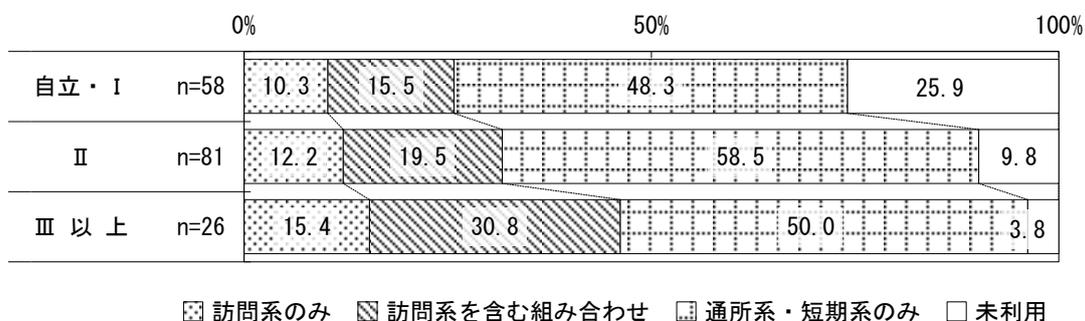
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



※無回答を除く

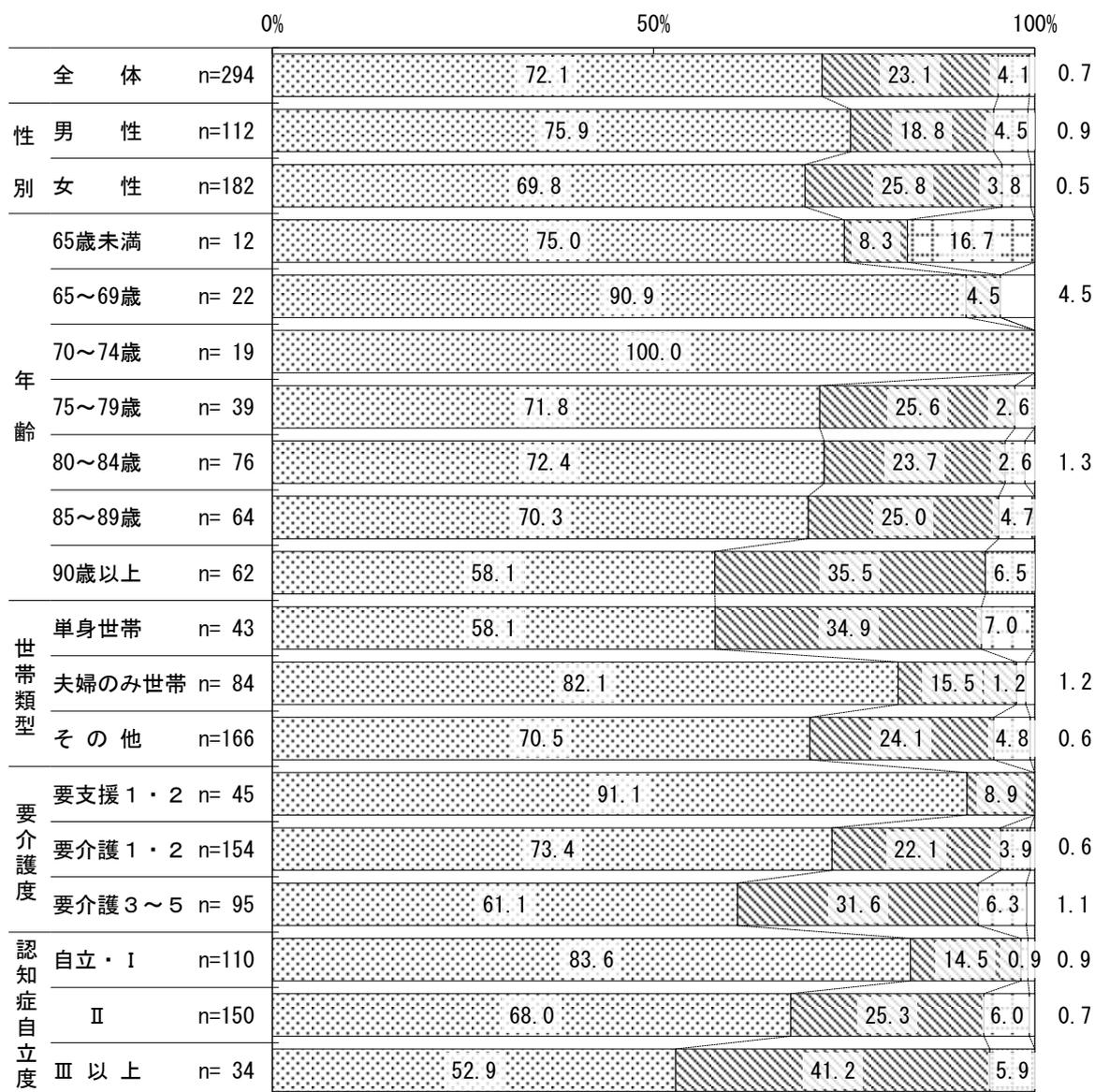
(6) 施設等への入所・入居の検討状況

施設等*への入所・入居の検討状況をみると、「入所・入居は検討していない」が72.1%を占めています。「すでに入所・入居申し込みをしている」は4.1%（12人）、「入所・入居を検討している」は23.1%（68人）、合計した入所・入居意向は27.2%（80人）です。

入所・入居意向が30%を超えているのは、年齢では90歳以上、世帯類型別では単身世帯、要介護度別では要介護3～5、認知症自立度別ではⅡ以上です。心身の状態の悪化・重度化や家族介護者の不在が入所・入居意向に影響していることがわかります。

*「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

図表 2-12 施設等への入所・入居の検討状況



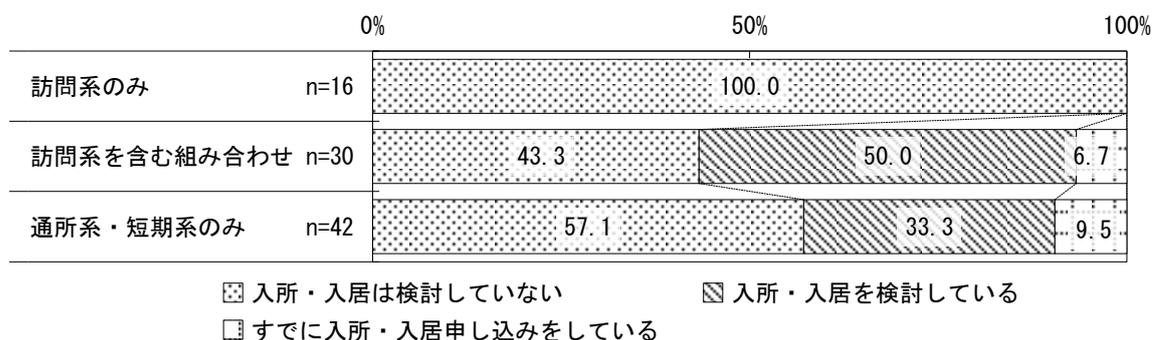
入所・入居は検討していない 入所・入居を検討している
 すでに入所・入居申し込みをしている 無回答

(7) サービス利用の組み合わせと施設等への入所・入居の検討状況

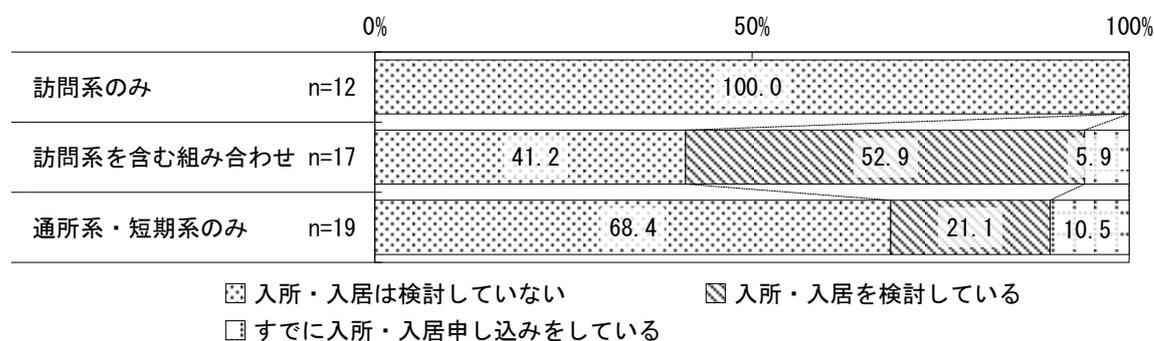
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②要介護4以上、③認知症自立度Ⅲ以上に分けて、サービス利用の組み合わせ別にみると、①～③いずれの場合においても〈訪問系のみ〉では「入所・入居は検討していない」と全員が回答しており100%です。また、〈訪問系を含む組み合わせ〉では「入所・入居を検討している」が50%以上を占めています。

図表2-13 施設等への入所・入居の検討状況（サービス利用の組み合わせ別）

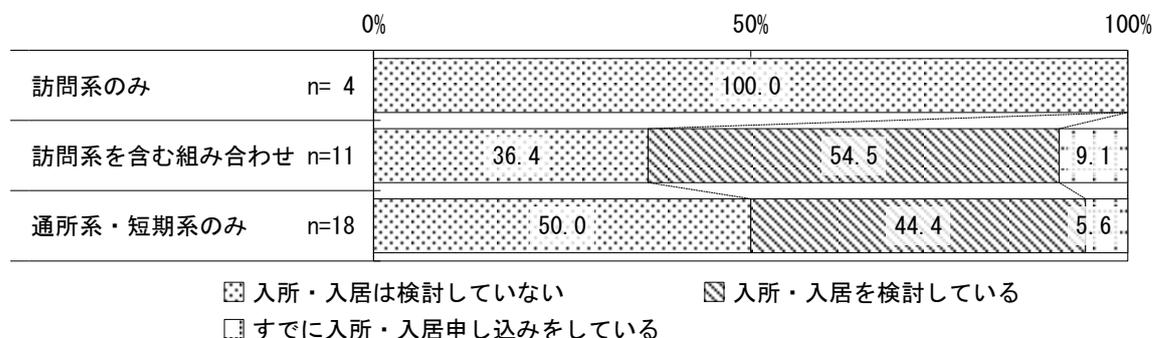
① 要介護3以上



② 要介護4以上



③ 認知症自立度Ⅲ以上

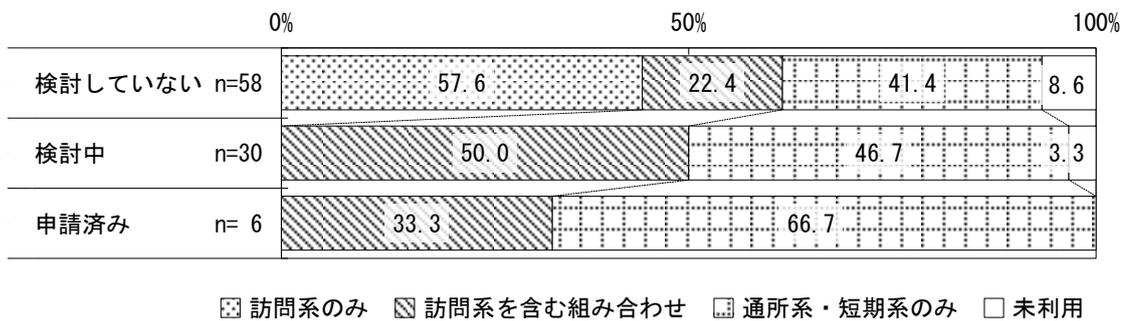


※無回答を除く

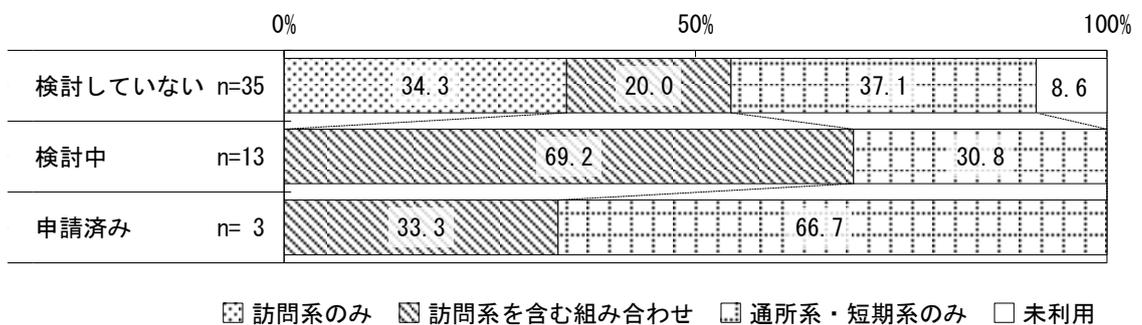
①要介護3以上、②要介護4以上、③認知症自立度Ⅲ以上に分けて、サービス利用の組み合わせを施設等への入所・入居の検討状況別にみると、①要介護3以上の場合<検討していない>から<検討中><申請済み>となるにしたがい「通所系・短期系のみ」の割合が高くなっています。②要介護4以上の場合<検討中>に占める「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。③認知症自立度Ⅲ以上の場合、いずれも「通所系・短期系のみ」が50%以上を占めています。

図表2-14 サービス利用の組み合わせ（施設等への入所・入居の検討状況別）

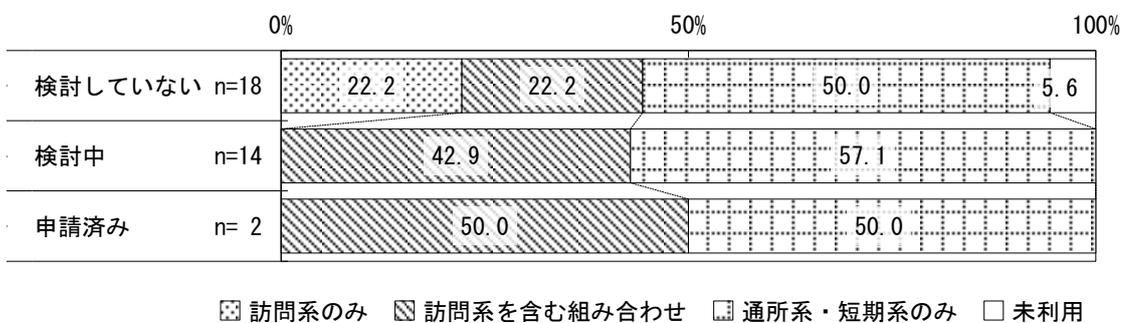
① 要介護3以上



② 要介護4以上



③ 認知症自立度Ⅲ以上



※無回答を除く

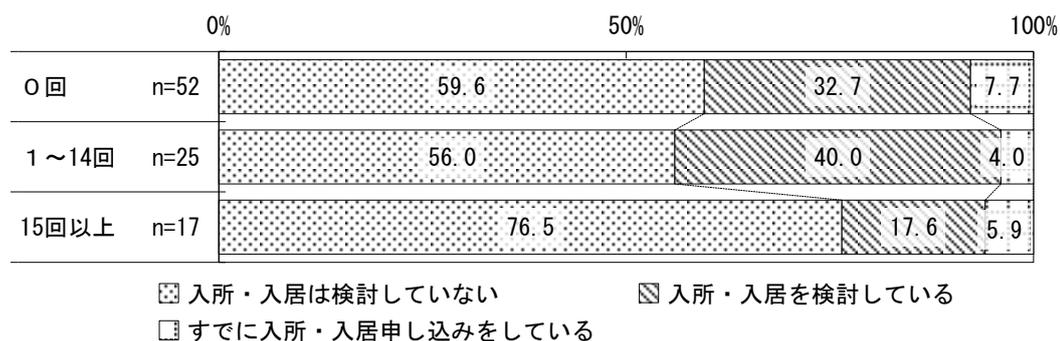
(8) サービスの利用回数と施設等への入所・入居の検討状況

① 訪問系サービス

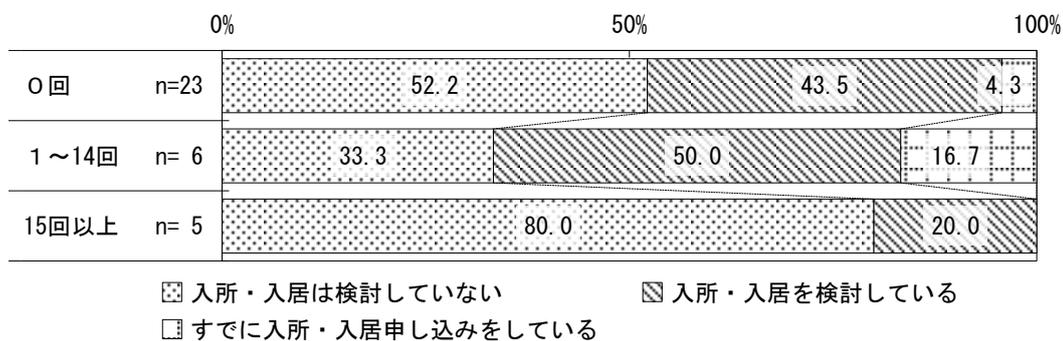
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、訪問系サービスの利用回数別にみると、利用回数が<15回以上>では「入所・入居は検討していない」が70%を超える高い率となっています。

図表2-15 訪問系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



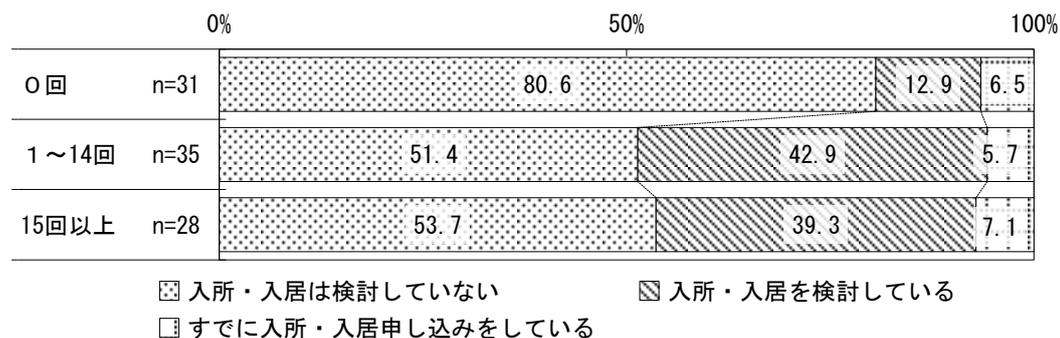
※無回答を除く

② 通所系サービス

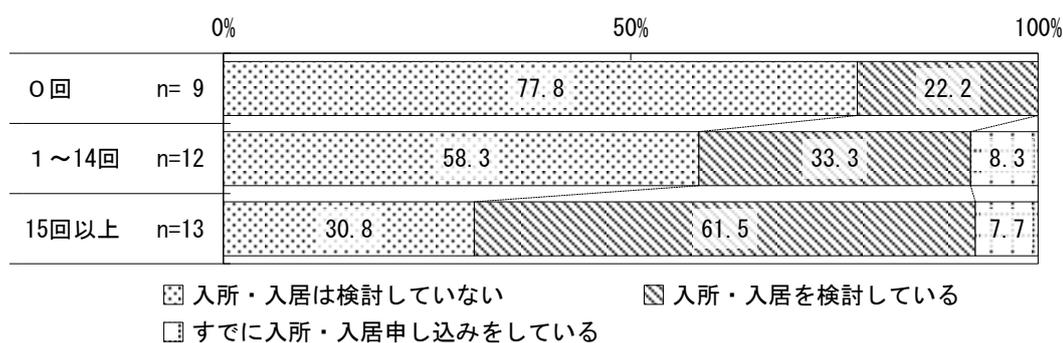
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、通所系サービスの利用回数別にみると、利用回数が<0回>では「入所・入居は検討していない」が80%近い高い率となっています。

図表2-16 通所系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



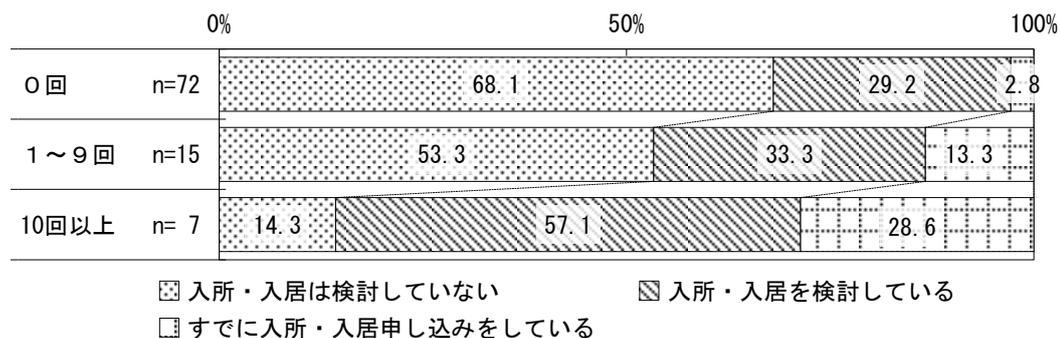
※無回答を除く

③ 短期系サービス

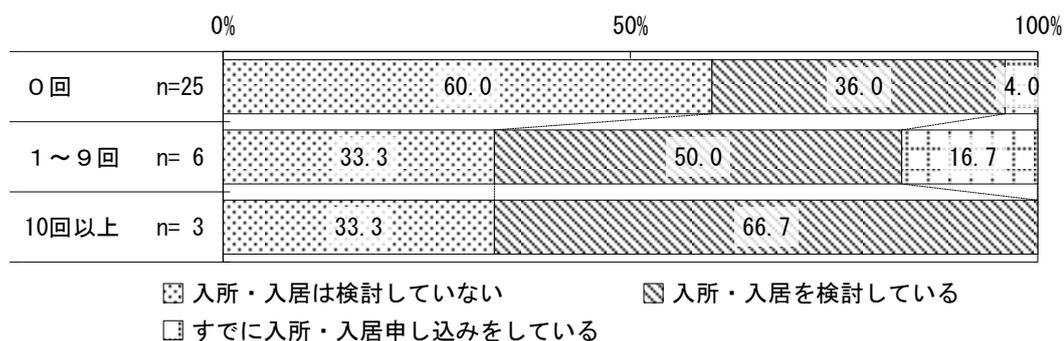
施設等への入所・入居の検討状況を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、短期系サービスの利用回数別にみると、利用回数が<0回>では「入所・入居は検討していない」が60%以上の高い率となっています。

図表2-17 短期系サービスの利用回数と介護保険施設等への入所・入居の検討状況

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上



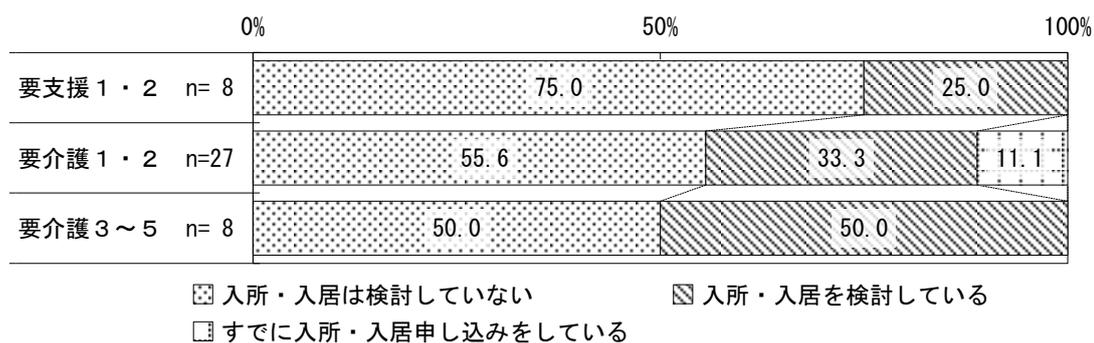
※無回答を除く

(9) 要介護度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況

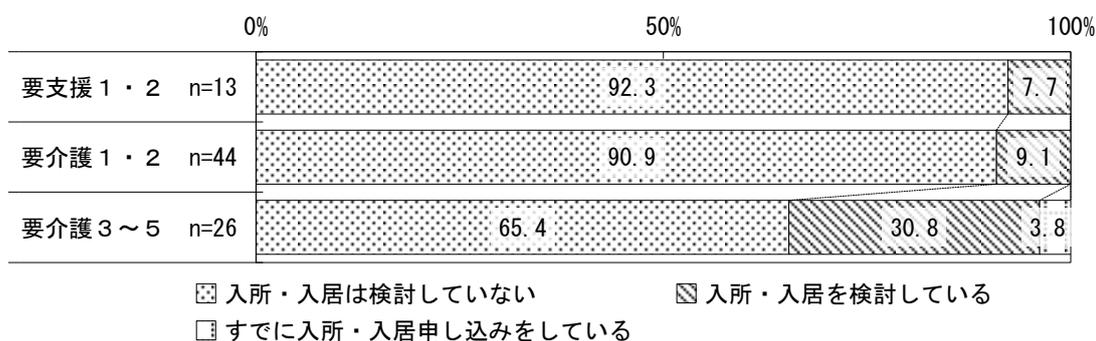
施設等への入所・入居の検討状況を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、いずれの世帯類型においても重度化にしたがい「入所・入居は検討していない」が低下し、「入所・入居を検討している」および「すでに入所・入居申し込みをしている」は高くなる傾向にあります。

図表 2-18 施設等への入所・入居の検討状況（要介護度別・世帯類型別）

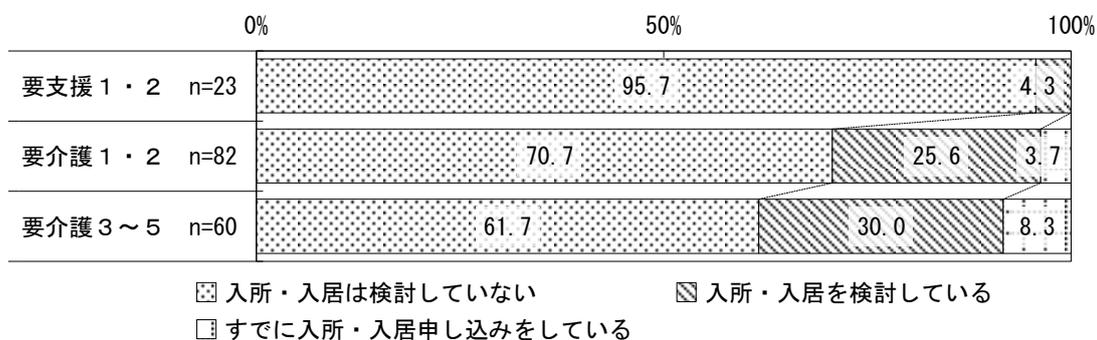
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



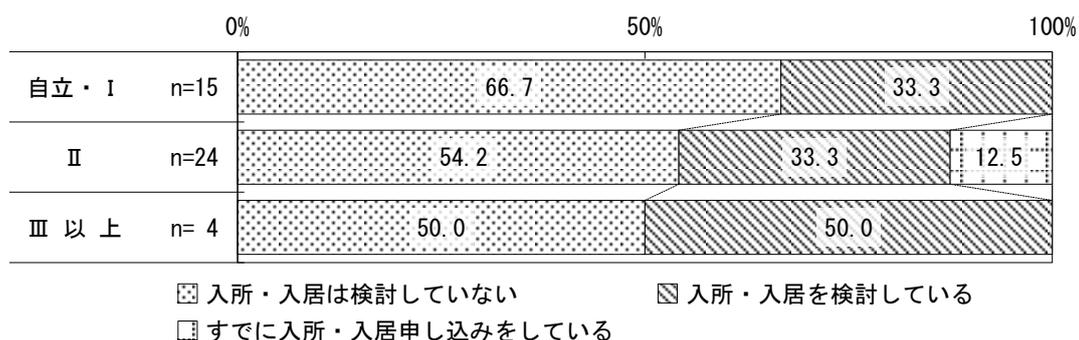
※無回答を除く

(10) 認知症自立度別・世帯類型別の施設等への入所・入居の検討状況

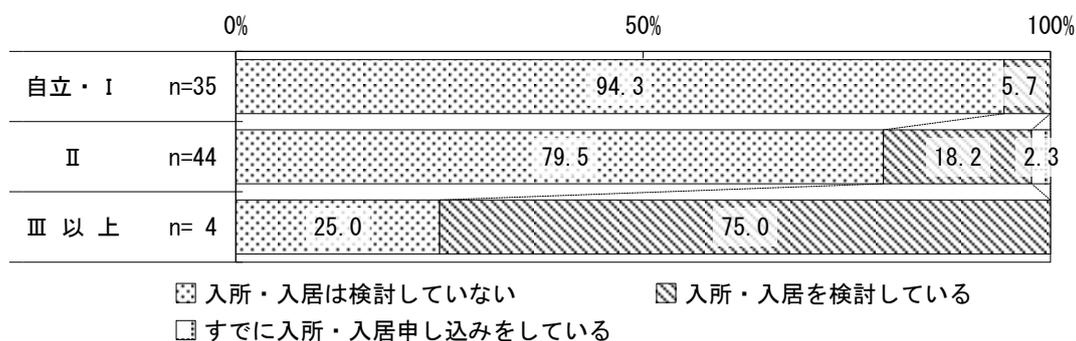
施設等への入所・入居の検討状況を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、認知症自立度別にみると、いずれの世帯類型においても重度化にしたがい「入所・入居は検討していない」が低下し、「入所・入居を検討している」および「すでに入所・入居申し込みをしている」は高くなる傾向にあります。

図表 2-19 施設等への入所・入居の検討状況（認知症自立度別・世帯類型別）

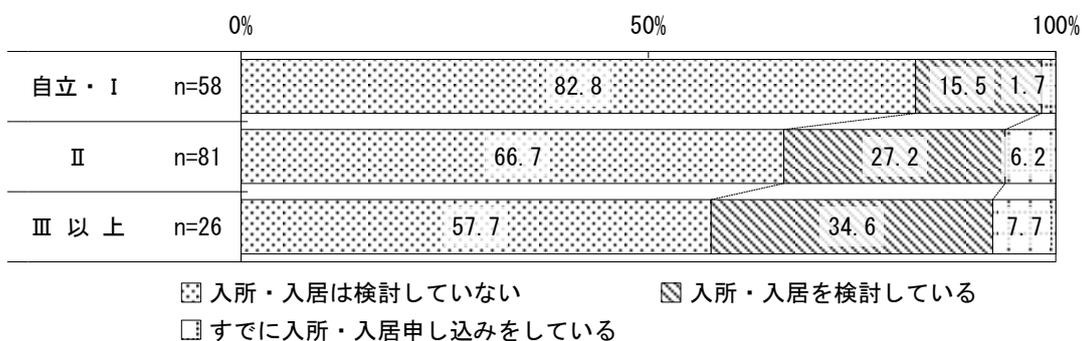
① 単身世帯



② 夫婦のみ世帯



③ その他



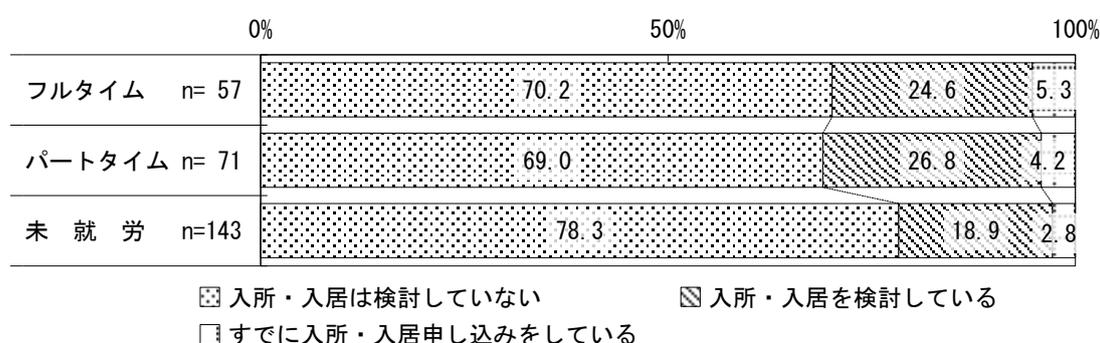
※無回答を除く

(11) 介護者の就労状況別の施設等への入所・入居の検討状況

介護者の就労状況別に、施設等への入所・入居の検討状況をみると、「入所・入居は検討していない」が最も高いのは<未就労>であり、最も低いのは<パートタイム>です。なお、<フルタイム>および<パートタイム>の「入所・入居を検討している」並びに「すでに入所・入居申し込みをしている」の合計は30%前後の高い率となっています（図表2-20）。

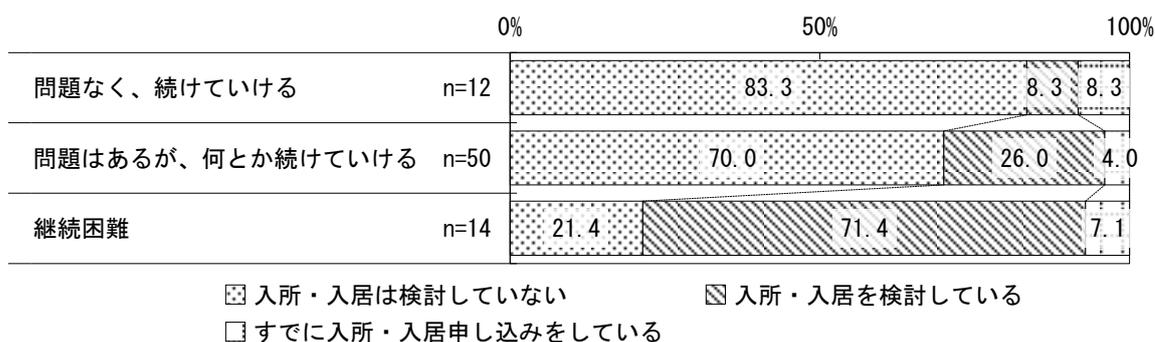
また、要介護2以上で介護者が就労している人の就労継続の見込み別にみると、就労継続が困難になるにしたい「入所・入居を検討している」および「すでに入所・入居申し込みをしている」が高くなっています（図表2-21）。

図表2-20 施設等への入所・入居の検討状況（就労状況別）



※無回答を除く

図表2-21 施設等への入所・入居の検討状況（就労継続見込み別・要介護2以上で介護者が就労）



※「継続困難」＝「続けていくのは、やや難しい」＋「続けていくのは、かなり難しい」
 ※無回答を除く

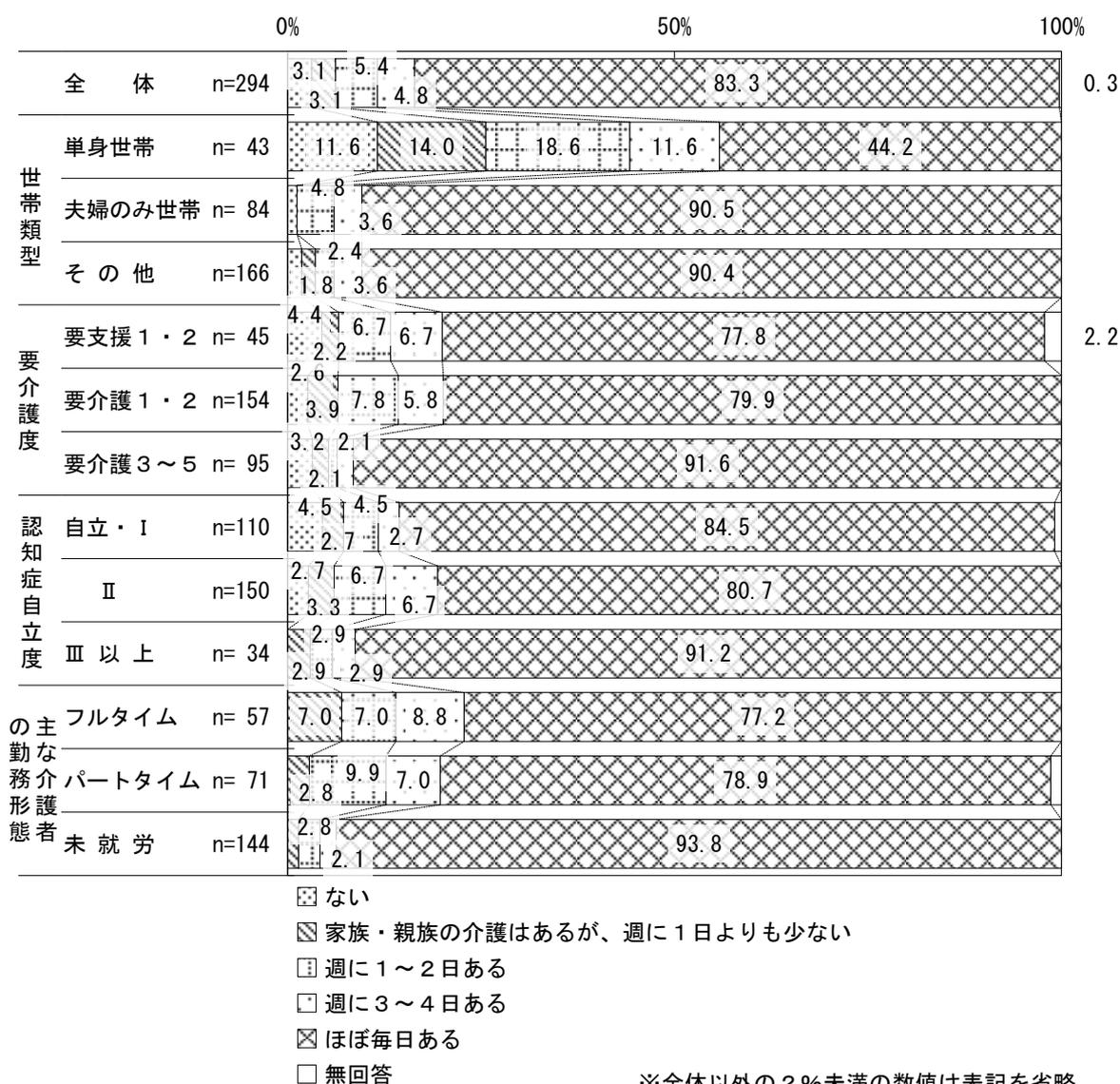
3 介護者の状況

(1) 家族・親族による介護の頻度

家族・親族からの介護（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）については、「ほぼ毎日ある」が83.3%を占めており、これに「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」「週に1～2日ある」「週に3～4日ある」を加えた<家族・親族の介護を受けている>人は96.6%です。「ない」は3.1%となっています。

「ほぼ毎日ある」が90%を超えているのは、世帯類型別では夫婦のみ世帯およびその他、要介護度別では要介護3～5、認知症自立度別ではⅢ以上、主な介護者の勤務形態別では未就労です。

図表2-22 家族・親族による介護の頻度

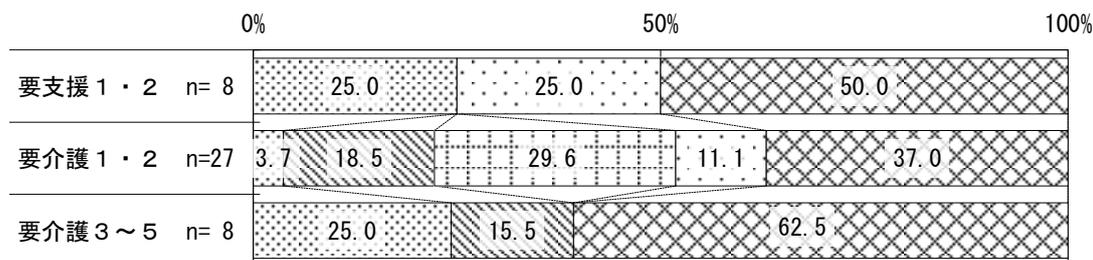


(2) 要介護度別・世帯類型別の家族・親族による介護の頻度

家族・親族による介護の頻度を、①単身世帯、②夫婦のみ世帯、③その他の世帯類型別に分けて、要介護度別にみると、いずれの世帯類型、要介護度においても「ほぼ毎日」が最も高くなっていますが、単身世帯では他の世帯類型に比べ低くなっており、近居の家族・親族による介護なしで在宅生活を継続しているケースのあることがわかります。

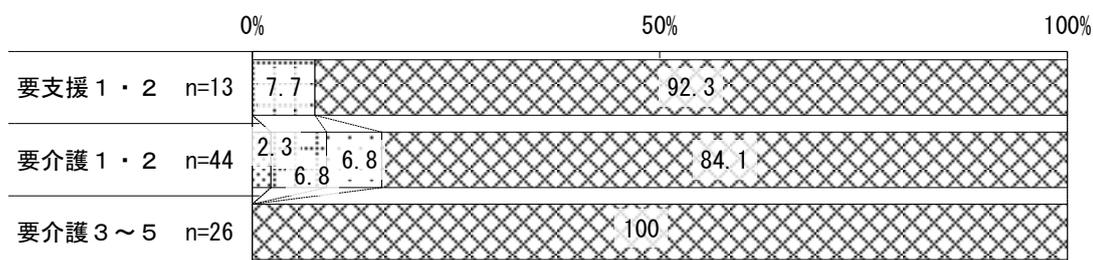
図表 2-23 家族・親族による介護の頻度（要介護度別・世帯類型別）

① 単身世帯



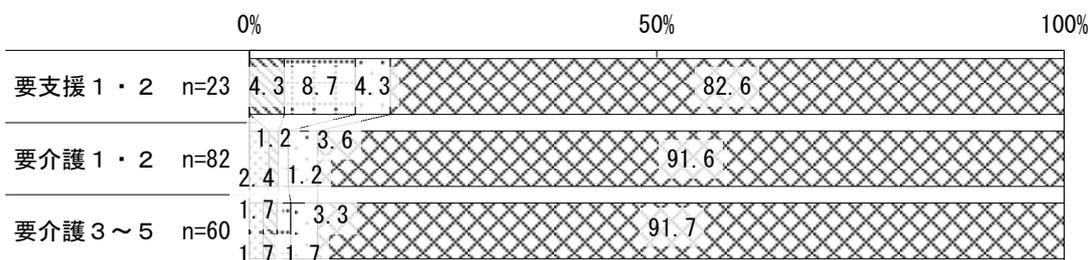
□ ない ▨ 週に1日よりも少ない ▩ 週に1～2日ある ◻ 週に3～4日ある ◼ ほぼ毎日ある

② 夫婦のみ世帯



□ ない ▨ 週に1日よりも少ない ▩ 週に1～2日ある ◻ 週に3～4日ある ◼ ほぼ毎日ある

③ その他



□ ない ▨ 週に1日よりも少ない ▩ 週に1～2日ある ◻ 週に3～4日ある ◼ ほぼ毎日ある

※無回答を除く

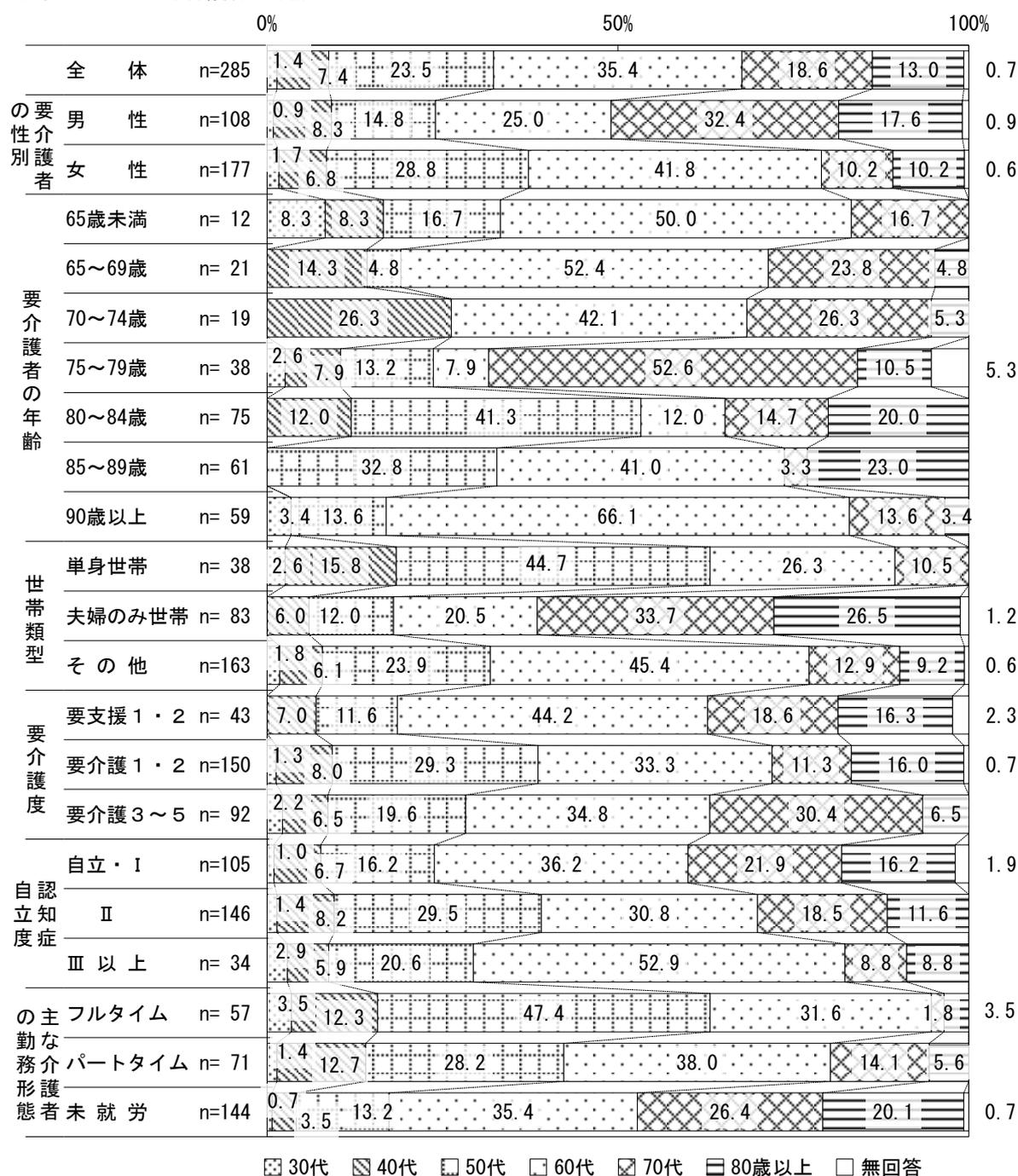
(3) 主な介護者の年齢

主な介護者の年齢は「60代」が35.4%と最も高く、次いで「50代」が23.5%、「70代」が18.6%、「80歳以上」が13.0%の順となっています。

要介護者の性別にみると、男性の場合、配偶者が主な介護者となることが多いため70代以上が50.0%を占めています。世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯では70代以上が60.2%を占めています。

主な介護者の勤務形態別にみると、フルタイムでは「50代」、パートタイムおよび未就労では「60代」が最も高くなっています。

図表 2-24 主な介護者の年齢

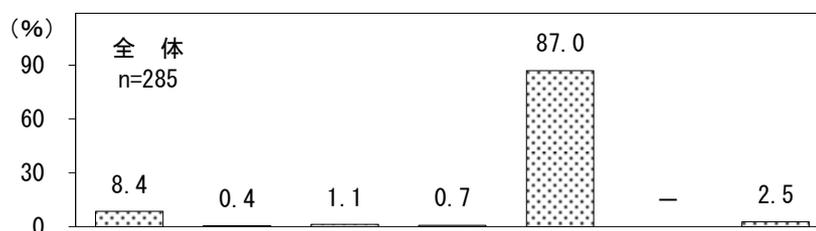


(4) 介護を理由とした離職

家族や親族の中で、調査対象者の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた人（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）がいるかをたずねたところ、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は8.4%（24人）、「主な介護者が転職した」は1.1%（3人）となっており、合計した＜主な介護者の離職・転職＞は9.5%（27人）です。＜主な介護者以外の離職・転職＞は1.1%（3人）です。

＜主な介護者の離職・転職＞が10%を超えているのは、世帯類型別ではその他、要介護度別では要支援1・2および要介護3～5、認知症自立度別では自立・I、主な介護者の年齢では30・40代および60代です。

図表2-25 介護を理由とした離職（複数回答）

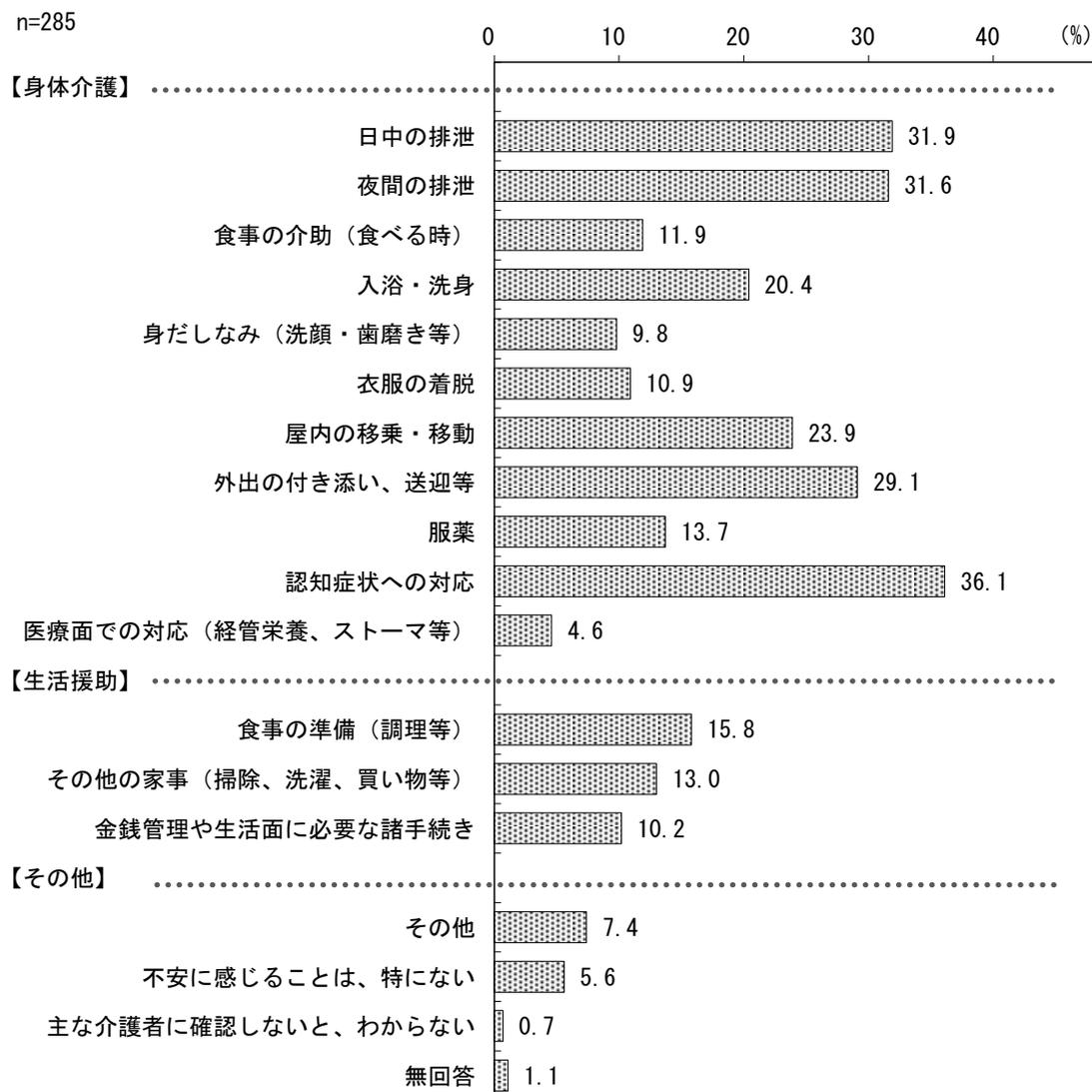


区分		n	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた（家族・親族はいない）	わからない	無回答
世帯類型	単身世帯	38	5.3	-	-	-	94.7	-	-
	夫婦のみ	83	3.6	-	-	-	92.8	-	3.6
	その他	163	11.7	0.6	1.8	1.2	82.2	-	2.5
要介護度	要支援1・2	43	14.0	-	2.3	-	81.4	-	2.3
	要介護1・2	150	5.3	-	1.3	1.3	89.3	-	2.7
	要介護3～5	92	10.9	1.1	-	-	85.9	-	2.2
認知症自立度	自立・I	105	12.4	-	1.9	-	83.8	-	1.9
	II	146	6.2	-	0.7	1.4	89.7	-	2.1
	III以上	34	5.9	2.9	-	-	85.3	-	5.9
主な介護者の年齢	30・40代	25	8.0	-	4.0	-	80.0	-	8.0
	50代	67	4.5	-	1.5	1.5	92.5	-	-
	60代	101	14.9	1.0	1.0	1.0	81.2	-	1.0
	70代以上	90	4.4	-	-	-	92.2	-	3.3

(5) 介護者が不安に感じる介護等

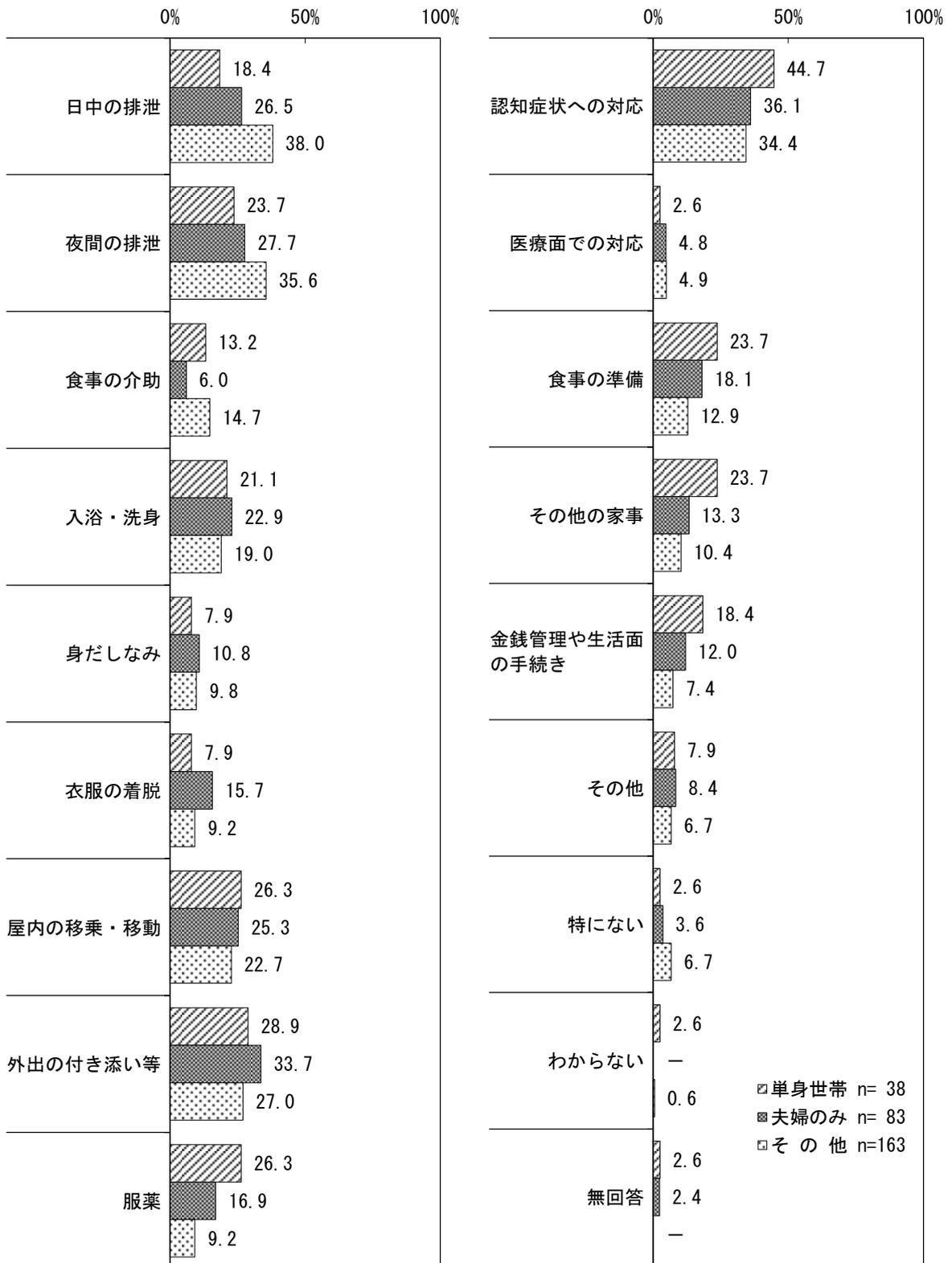
現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等（現状で行っているか否かは問いません）についてたずねたところ、「認知症状への対応」が36.1%と最も高くなっています。次いで「日中の排泄」が31.9%、「夜間の排泄」が31.6%、「外出の付き添い、送迎等」が29.1%などとなっています。

図表 2-26 介護者が不安に感じる介護等（複数回答）



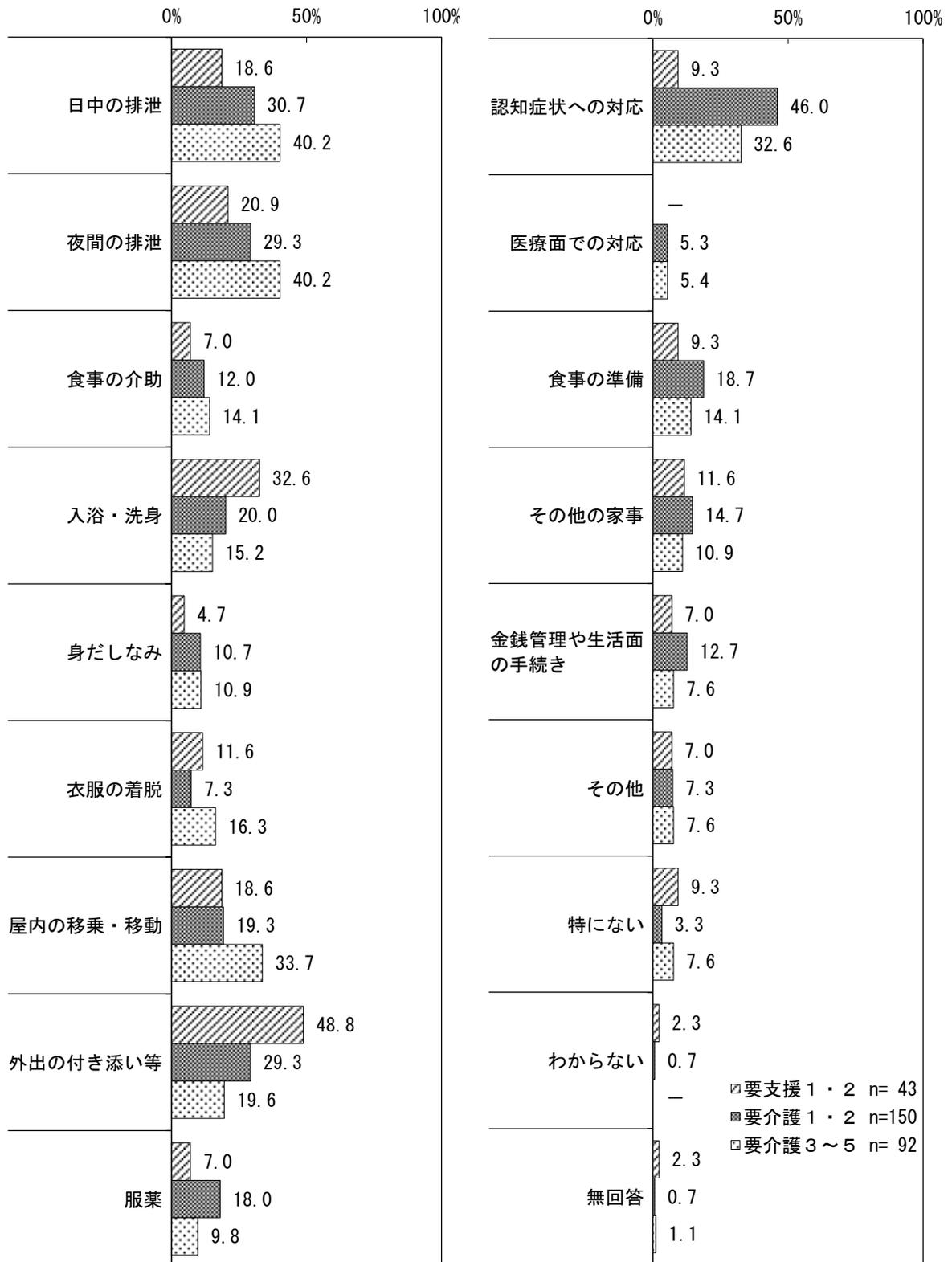
主な介護者が不安を感じる介護等を世帯類型別にみると、いずれの世帯においても「認知症状への対応」は30%を超える高い率となっていますが、それ以外に、夫婦のみ世帯では「外出の付き添い、送迎等」、その他では「日中の排泄」および「夜間の排泄」が30%を超えています。

図表 2-27 介護者が不安を感じる介護等（世帯類型別、複数回答）



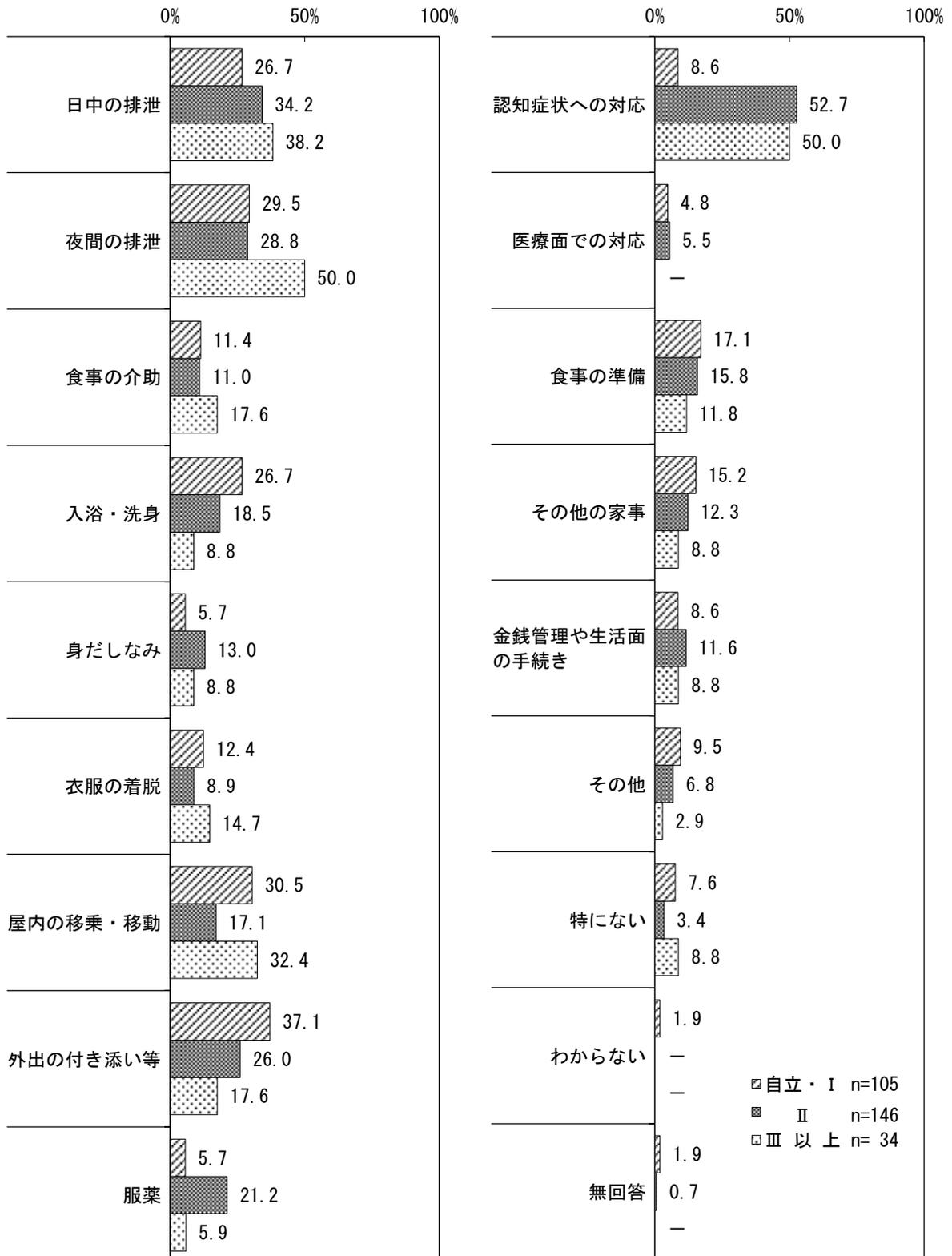
主な介護者が不安を感じる介護等を要介護度別にみると、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」、要介護1・2では「認知症状への対応」、要介護3～5では「日中の排泄」および「夜間の排泄」が最も高く、それぞれ40%を超えています。

図表2-28 介護者が不安を感じる介護等（要介護度別、複数回答）



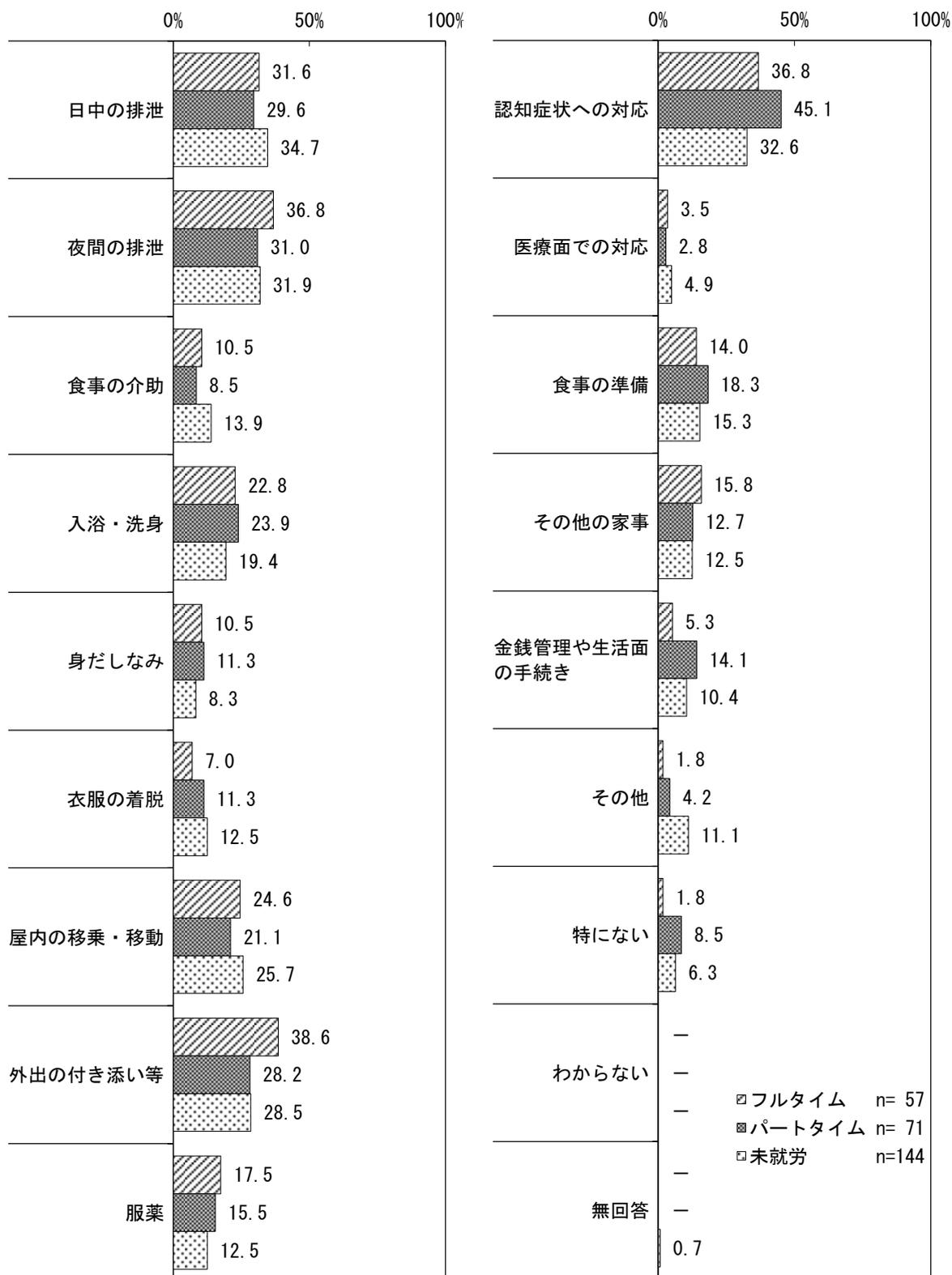
主な介護者が不安を感じる介護等を認知症自立度別にみると、自立・Iでは「外出の付き添い、送迎等」、IIでは「認知症状への対応」、III以上では「認知症状への対応」および「夜間の排泄」が最も高くなっています。排泄については重度化にしたがい高くなる傾向にあります。

図表2-29 介護者が不安を感じる介護等（認知症自立度別、複数回答）



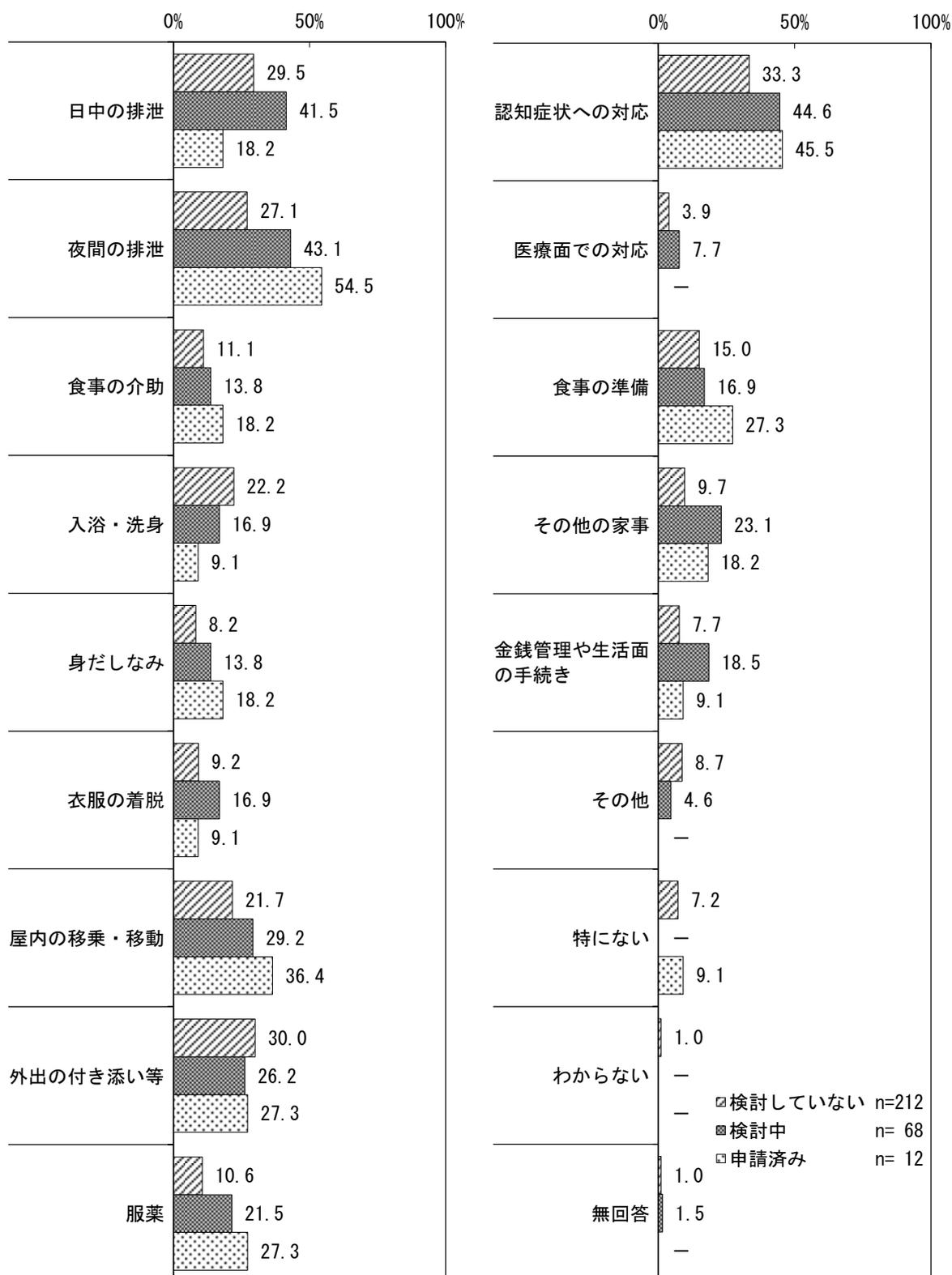
介護者が不安に感じる介護等を勤務形態別にみると、いずれの形態においても「認知症状への対応」「日中の排泄」「夜間の排泄」は高い率となっていますが、それ以外に、フルタイムで働いている介護者は「外出の付き添い、送迎等」も40%近い率となっています。

図表 2-30 介護者が不安に感じる介護等（勤務形態別、複数回答）



介護者が不安に感じる介護等を施設等への入所・入居検討状況別にみると、入所・入居を申請済みの場合は「認知症状への対応」および「夜間の排泄」が、入所・入居を検討中の場合はこれらに加え「日中の排泄」が40%を超える高い率となっています。

図表 2-31 介護者が不安に感じる介護等（施設等への入所・入居検討状況別、複数回答）

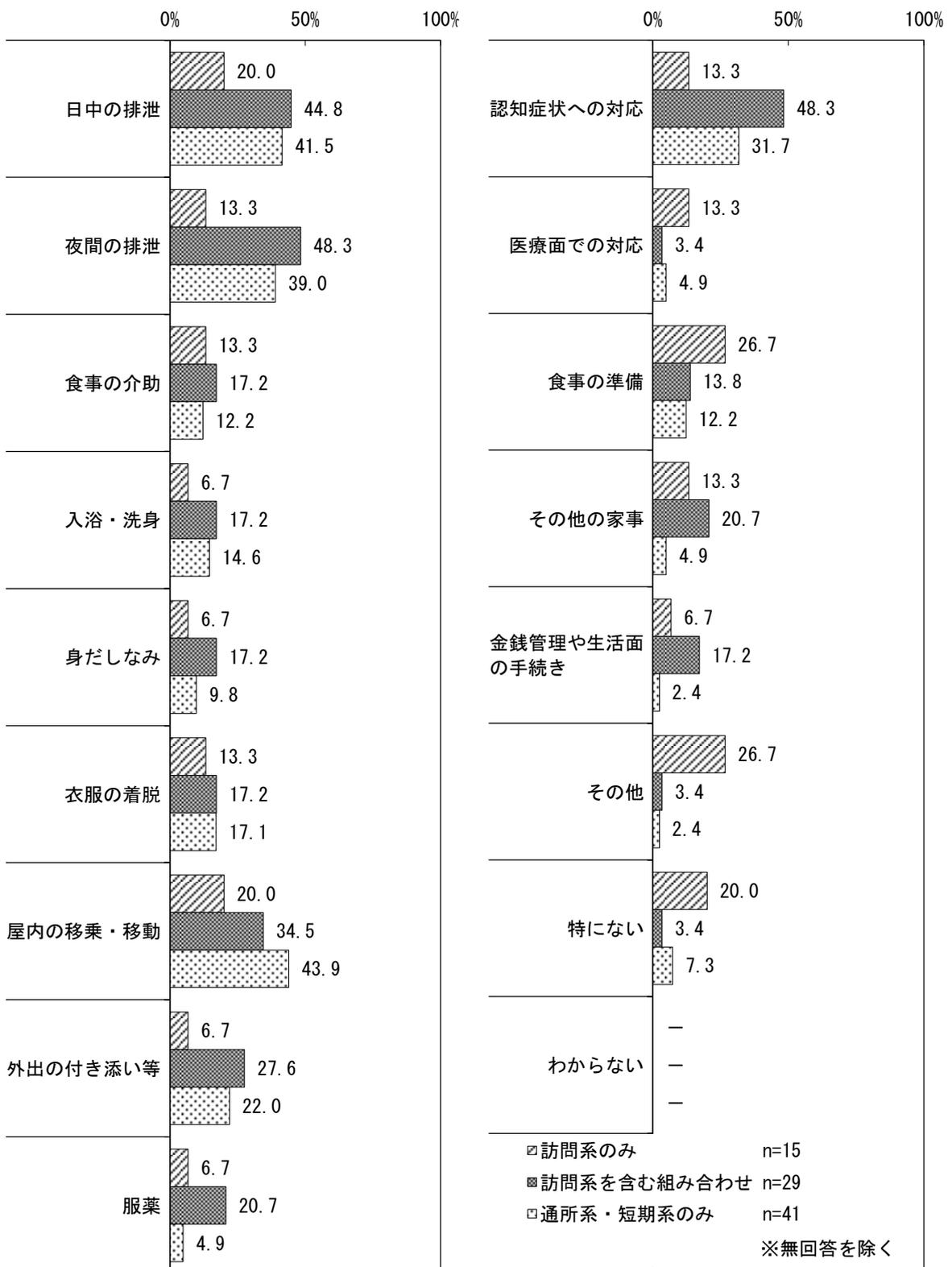


(6) サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等

介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、サービス利用の組み合わせ別にみると、①要介護3以上の場合、〈訪問系を含む組み合わせ〉

図表2-32 サービス利用の組み合わせと介護者が不安に感じる介護等

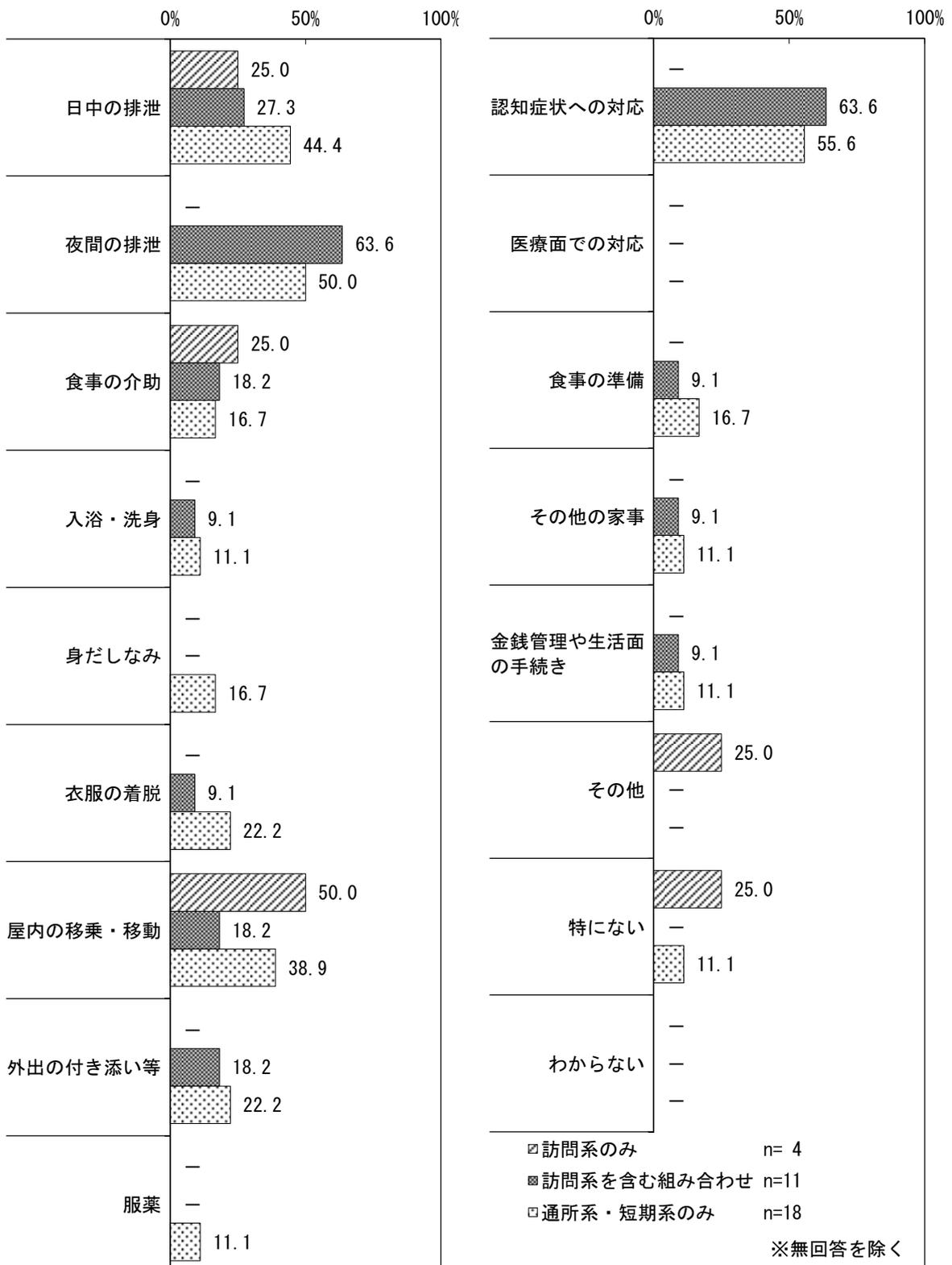
① 要介護3以上



が全般的に高く、特に「夜間の徘徊」「認知症状への対応」は50%近い率となっています。

②認知症自立度Ⅲ以上の場合、〈訪問系のみ〉では「屋内の移乗・移動」が、〈訪問系を含む組み合わせ〉および〈通所系・短期系のみ〉では「夜間の排泄」並びに「認知症状への対応」が50%以上の高い率となっています。

② 認知症自立度Ⅲ以上



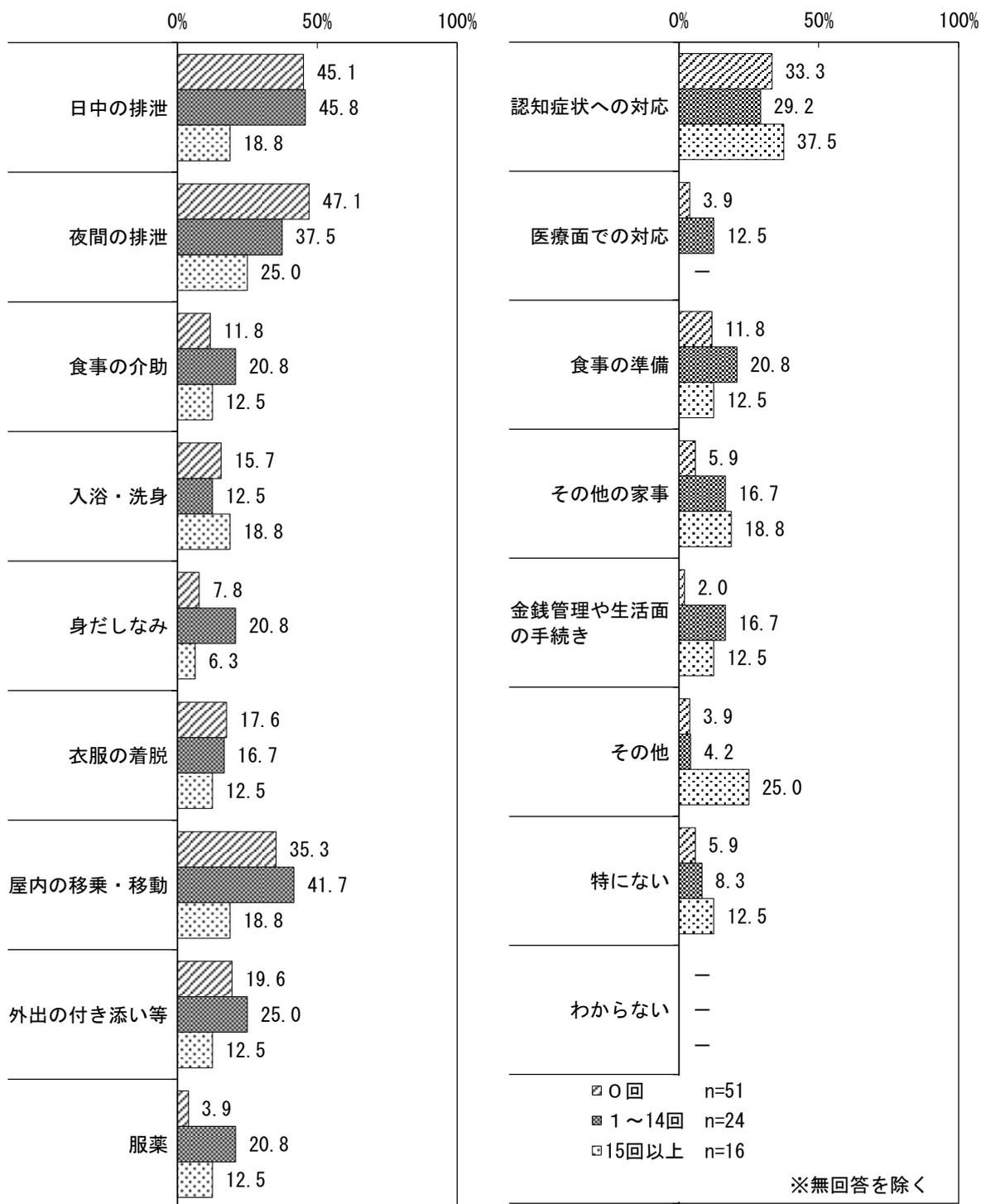
(7) サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等

① 訪問系サービス

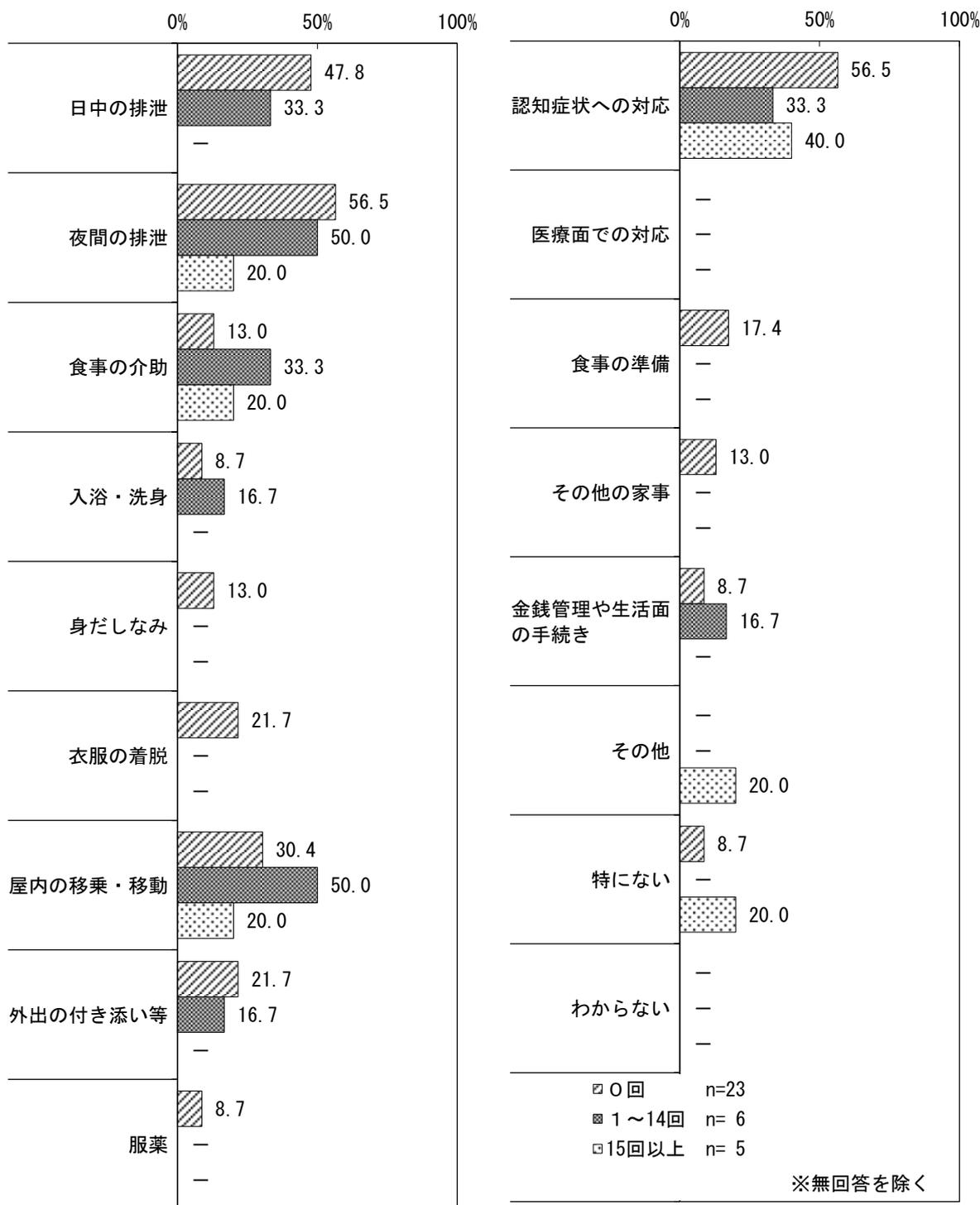
介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、訪問系サービスの利用回数別にみると、利用回数が増えるにしたがい、「日中の排泄」および「夜間の排泄」の不安が低下する傾向があります。

図表2-33 訪問系サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上

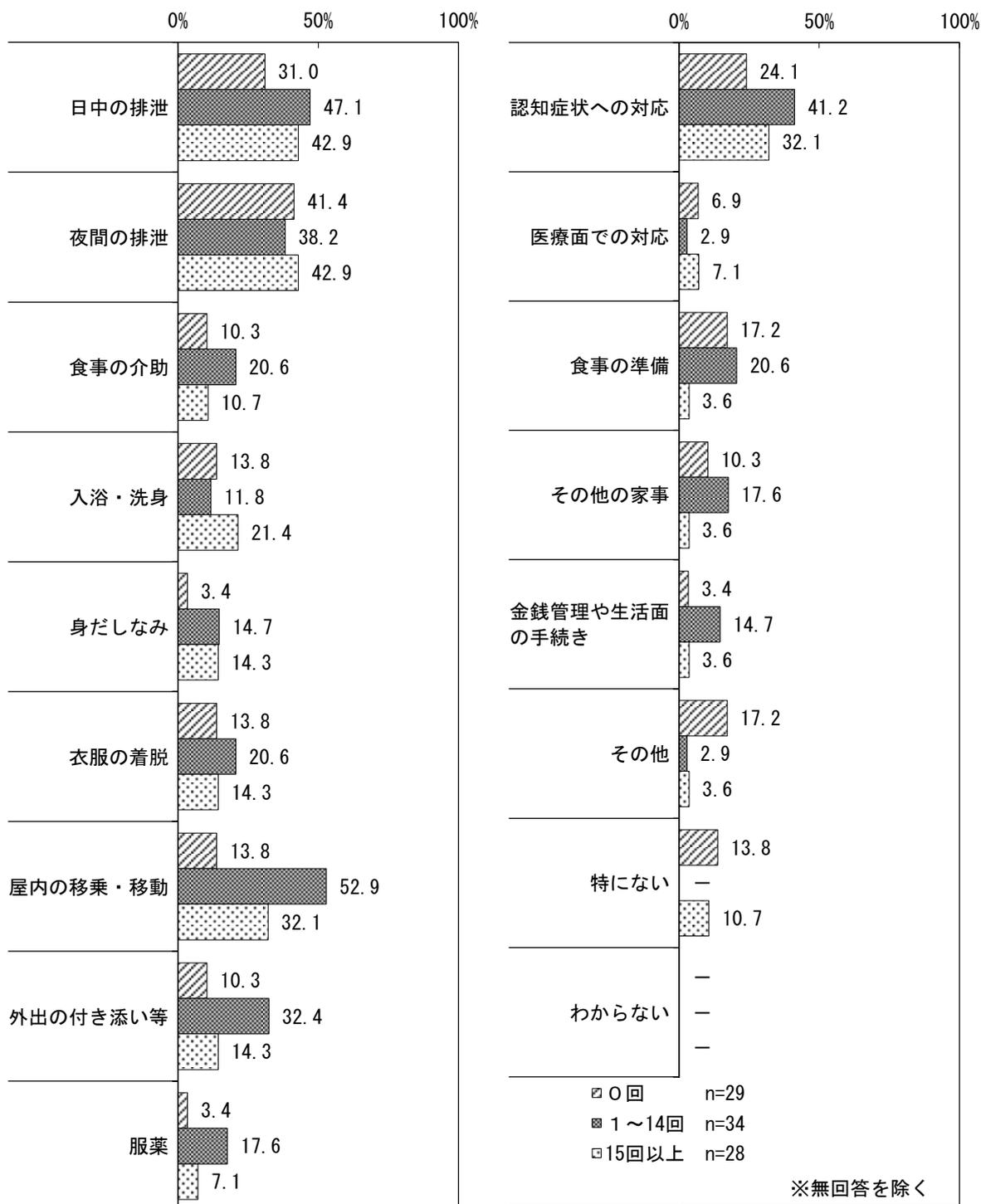


② 通所系サービス

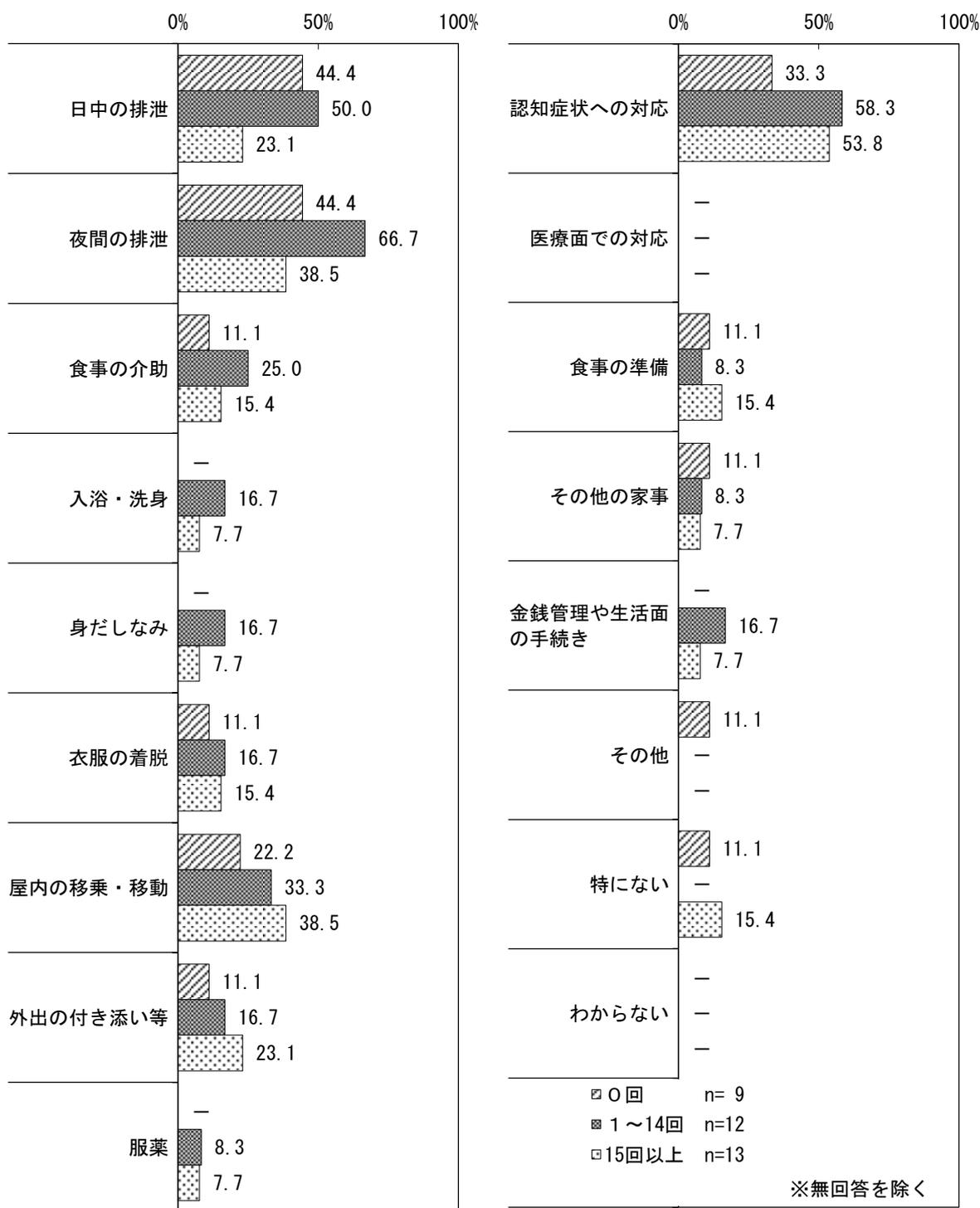
介護者が不安を感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、通所系サービスの利用回数別にみると、全般的に<1～14回>の不安が高く、<15回以上>になると低下する傾向があります。

図表2-34 通所系サービス利用回数と介護者が不安を感じる介護等

① 要介護3以上



② 認知症自立度Ⅲ以上

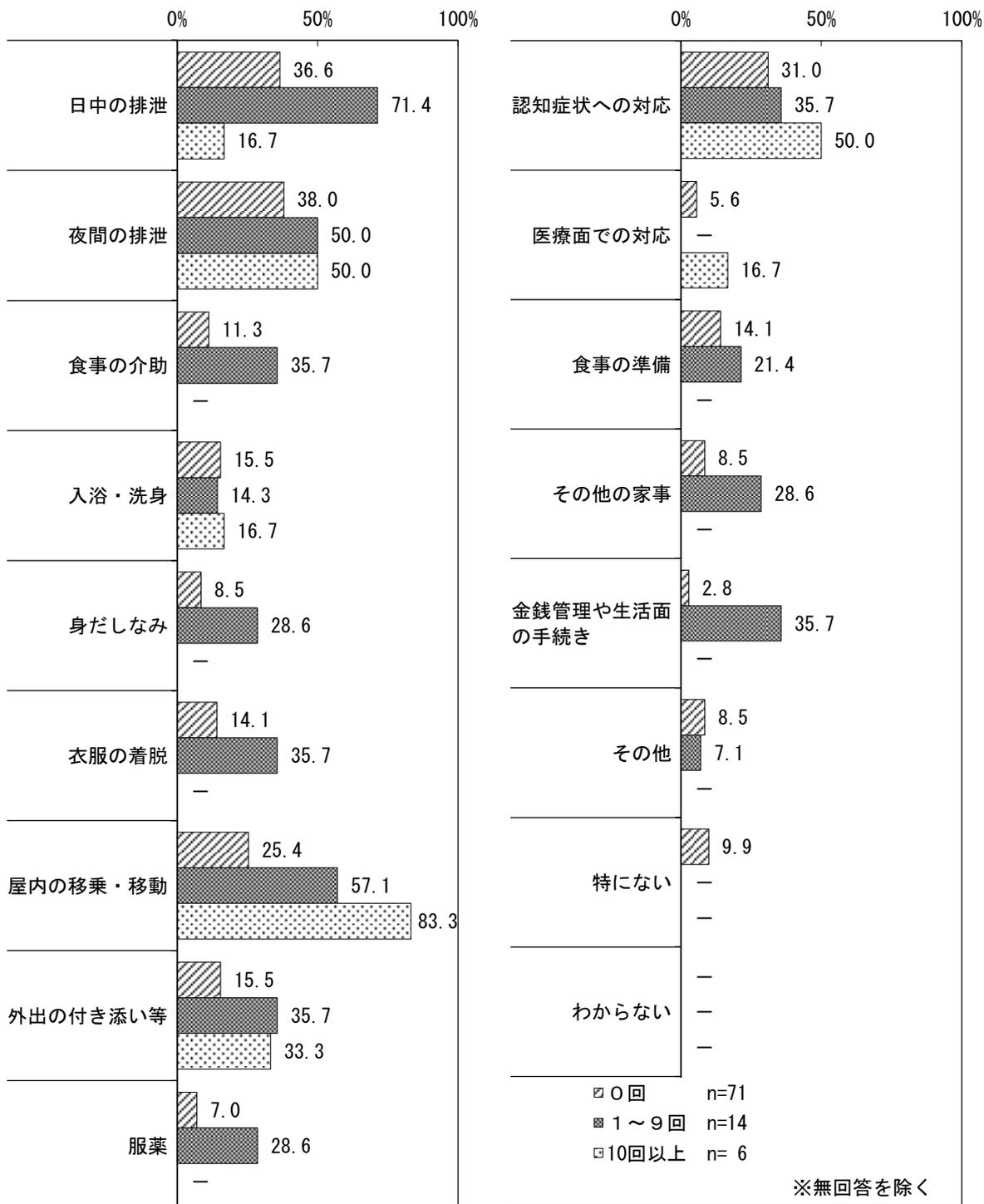


③ 短期系サービス

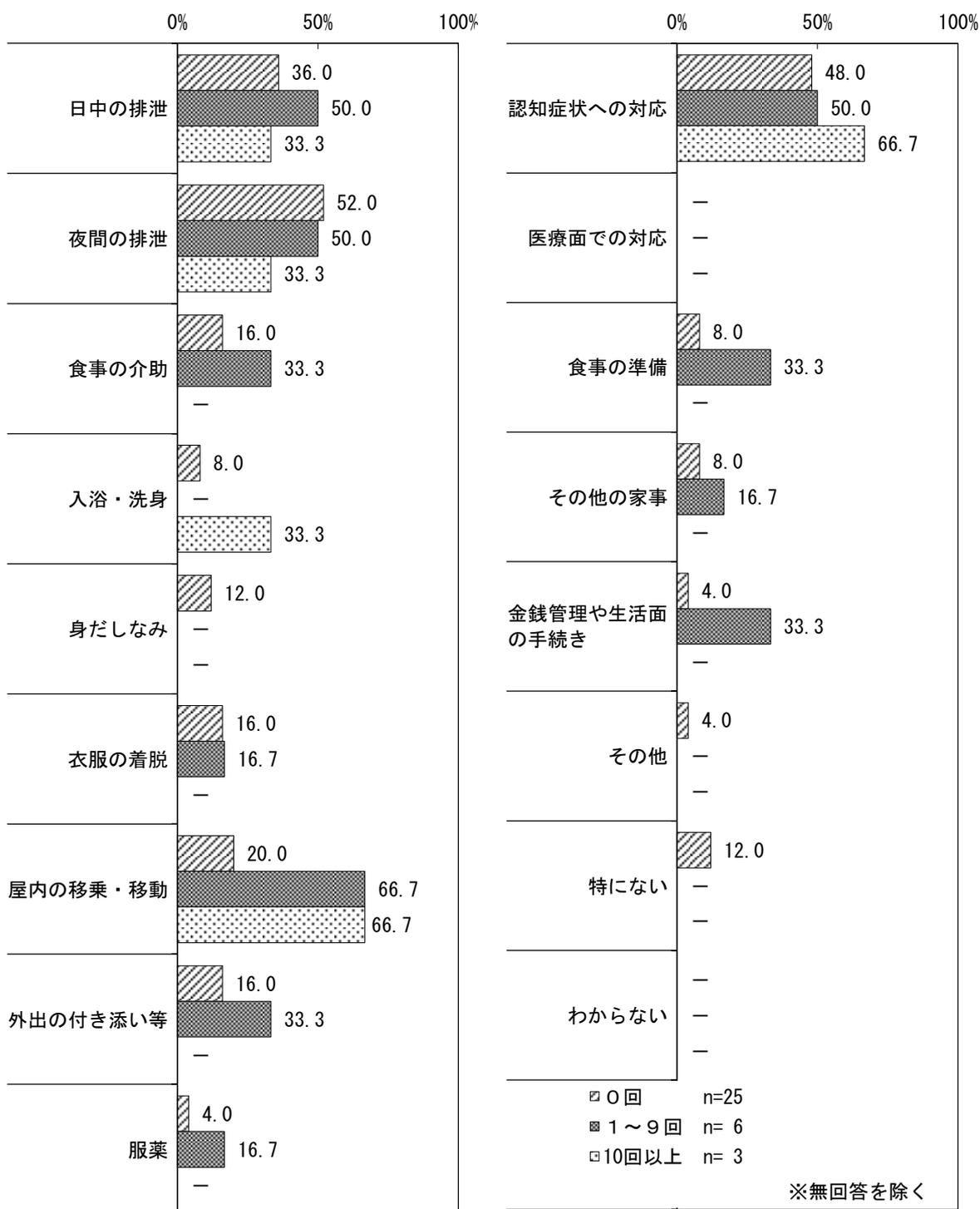
介護者が不安に感じる介護等を、①要介護3以上、②認知症自立度Ⅲ以上に分けて、短期系サービスの利用回数別にみると、利用回数が増えるにしたがい、「屋内の移乗・移動」および「認知症状への対応」の不安が高くなる傾向があります。

図表2-35 短期系サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護等

① 要介護3以上



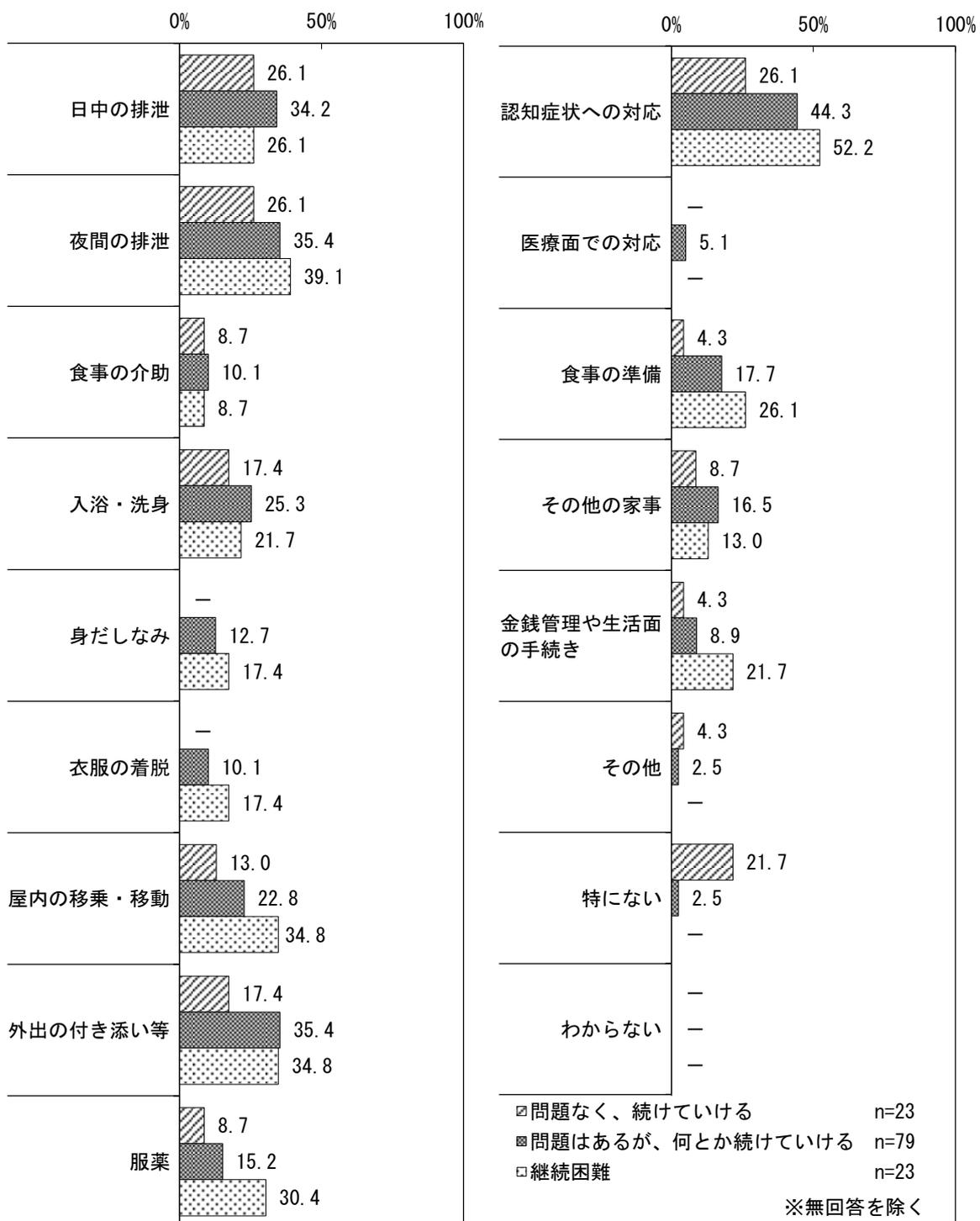
② 認知症自立度Ⅲ以上



(8) 就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等

介護者が就労している人の就労継続の見込み別にみると、就労継続が困難になるにしたいが、い全般的に不安が高くなる傾向にあります。

図表 2-36 就労継続の見込みと介護者が不安に感じる介護等



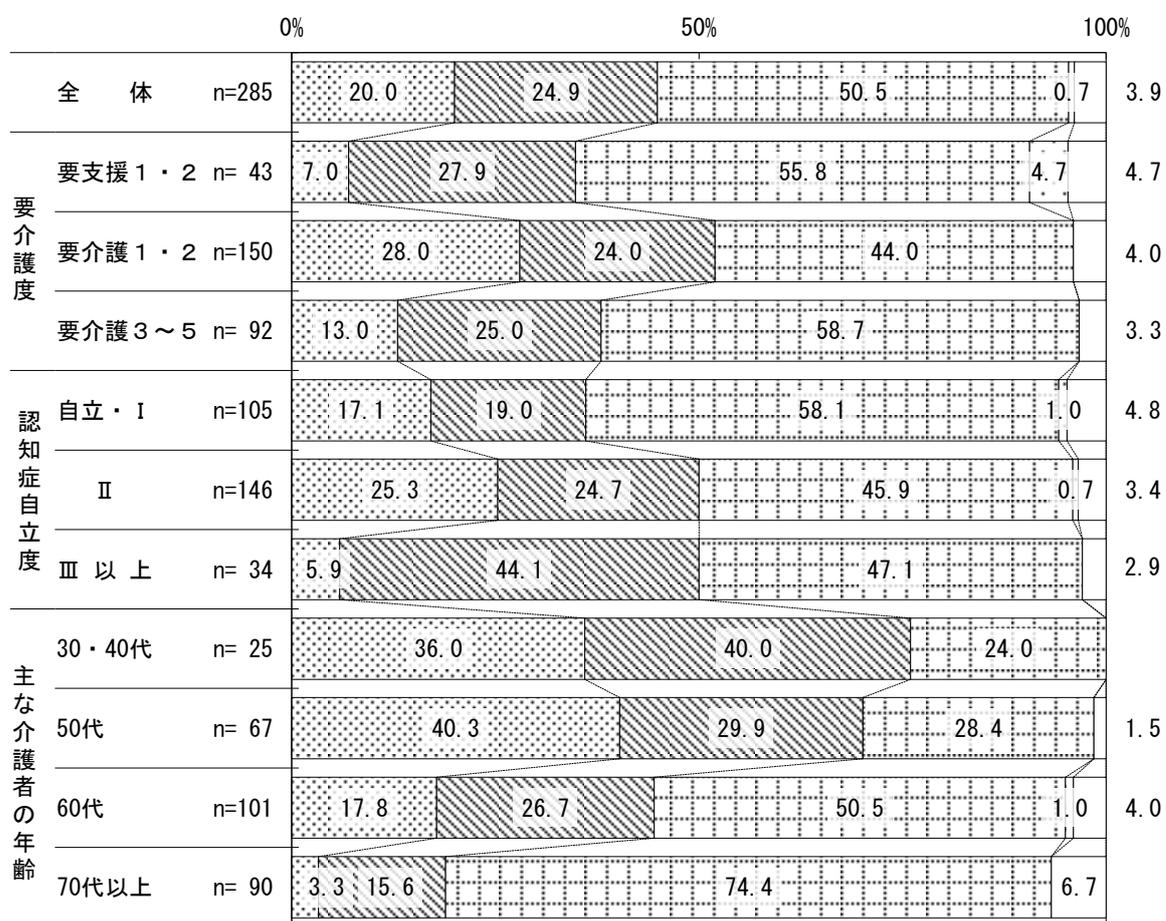
(9) 主な介護者の勤務形態

主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が50.5%を占めています。「フルタイムで働いている」は20.0%、「パートタイムで働いている」は24.9%、合計した〈働いている〉は44.9%です。

要介護度別にみると、〈働いている〉は要介護1・2では50%を超えています。要支援1・2および要介護3～5では30%台です。

主な介護者の年齢別にみると、50代以下では〈働いている〉が70%を超えています。特に50代では「フルタイムで働いている」が40%以上を占めています。

図表2-37 主な介護者の勤務形態



- フルタイムで働いている
- パートタイムで働いている
- 働いていない
- 主な介護者に確認しないと、わからない
- 無回答

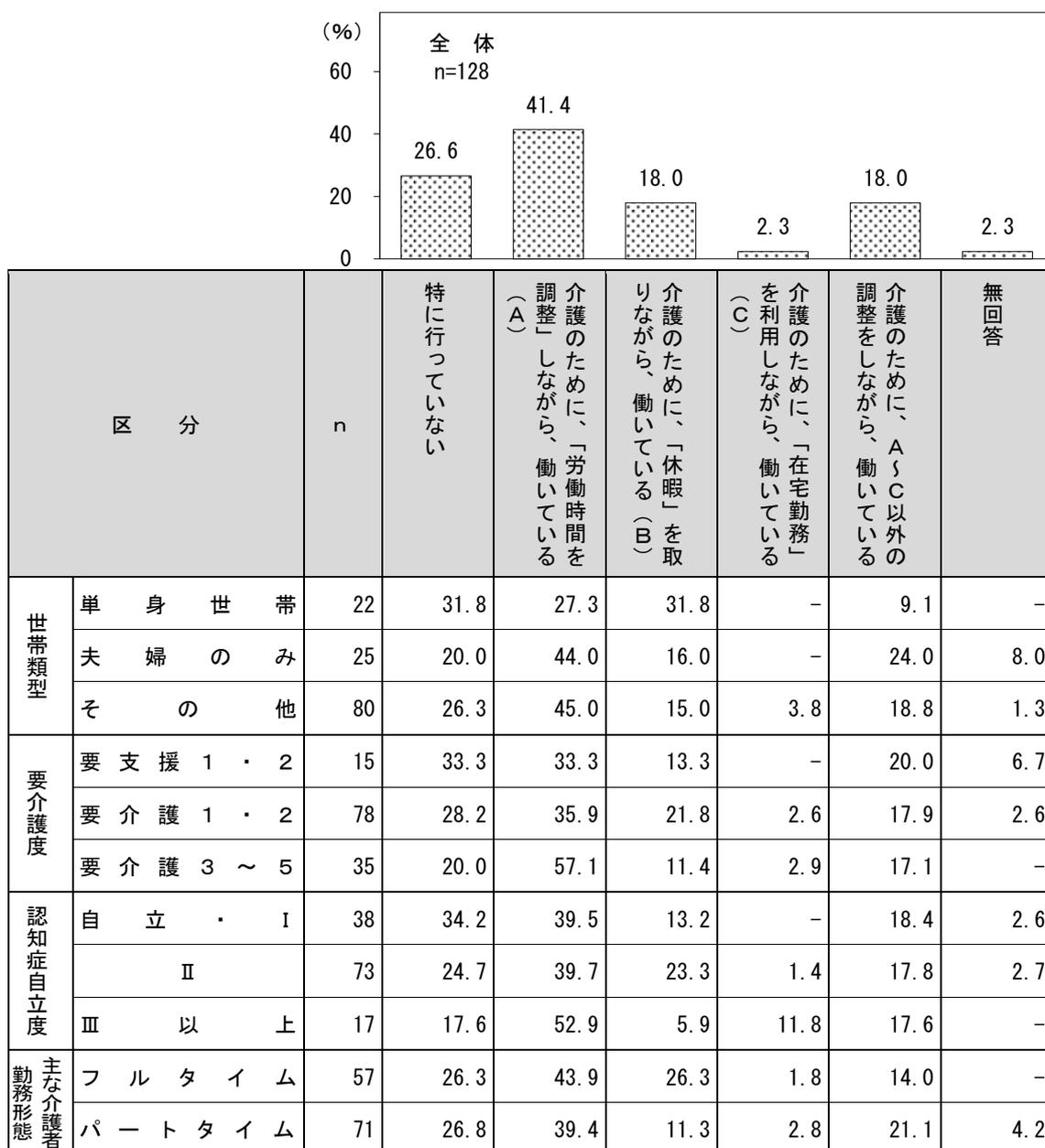
(10) 働き方の調整

主な介護者が介護をするにあたって働き方についての調整等をしているかたずねたところ、「特に行っていない」は26.6%、無回答が2.3%あり、71.1% (100% - (26.6% + 2.3%)) の人は何らかの「働き方の調整をしている」こととなります。

調整の内容としては、「介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている (A)」が41.4%と最も高く、次いで「介護のために、「休暇」を取りながら、働いている (B)」および「介護のために、A～C以外の調整をしながら、働いている」が18.0%です。

主な介護者の勤務形態別にみると、「働き方の調整をしている」は、フルタイムが73.7%、パートタイムが69.0%とフルタイムが若干高くなっています。

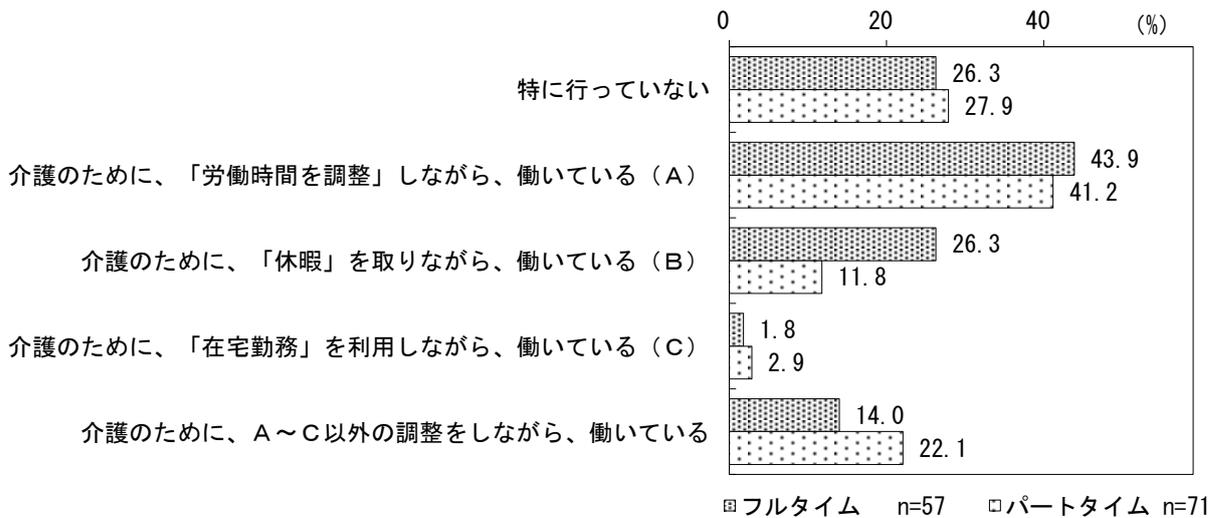
図表 2-38 介護のために働き方を調整しているか (複数回答)



主な介護者の勤務形態別に、詳細をみると、フルタイム、パートタイムともに「労働時間を調整」が最も高く、フルタイムでは「休暇」、パートタイムでは「A～C以外の調整」が、それぞれは別の勤務形態に比べ高くなっています（図表2-39）。

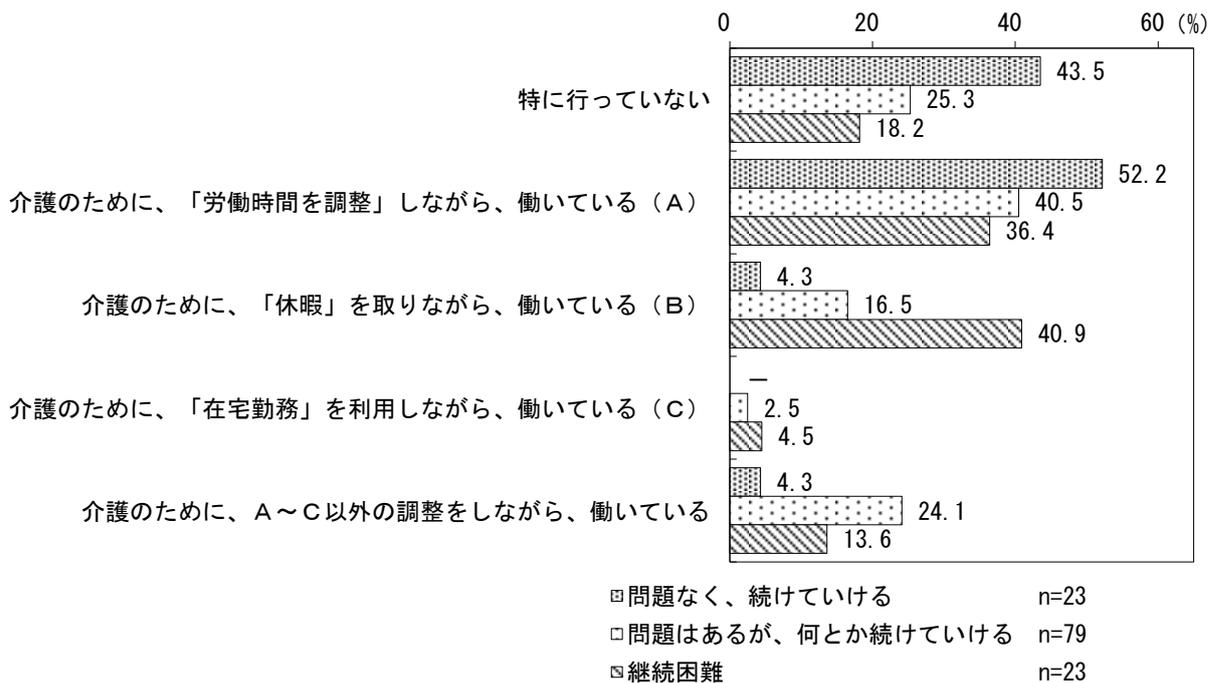
また、就労継続見込み別にみると、＜問題なく、続けていける＞人は「特に行っていない」や「労働時間を調整」が高くなっています。一方、＜継続困難＞な人は「休暇」が高くなっています（図表2-40）。

図表2-39 介護のために働き方を調整しているか（勤務形態別・複数回答）



※無回答を除く

図表2-40 介護のために働き方を調整しているか（就労継続の見込み別・複数回答）



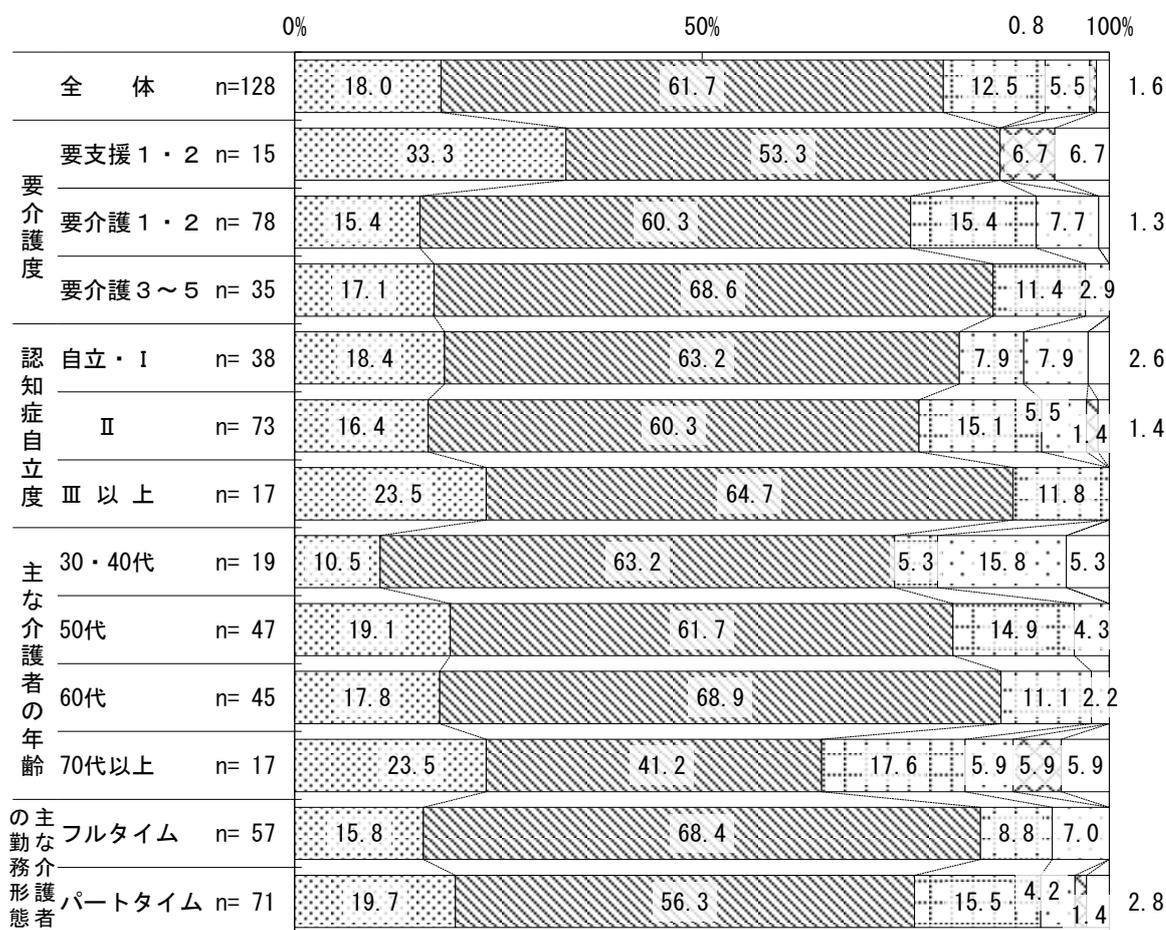
※無回答を除く

(11) 就労継続の見込み

主な介護者が今後も働きながら介護を続けていけそうかをたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が61.7%を占めています。これに「問題なく、続けていける」(18.0%)を加えた<継続可能>は79.7%です。「続けていくのは、やや難しい」は12.5%、「続けていくのは、かなり難しい」は5.5%あり、これらの合計<継続困難>は18.0%です。

主な介護者の勤務形態別にみると、<継続困難>はフルタイムが15.8%であるのに対し、パートタイムでは19.7%と、パートタイムがフルタイムを3.9ポイント上回っています。

図表2-41 働きながら介護を続けていけそうか



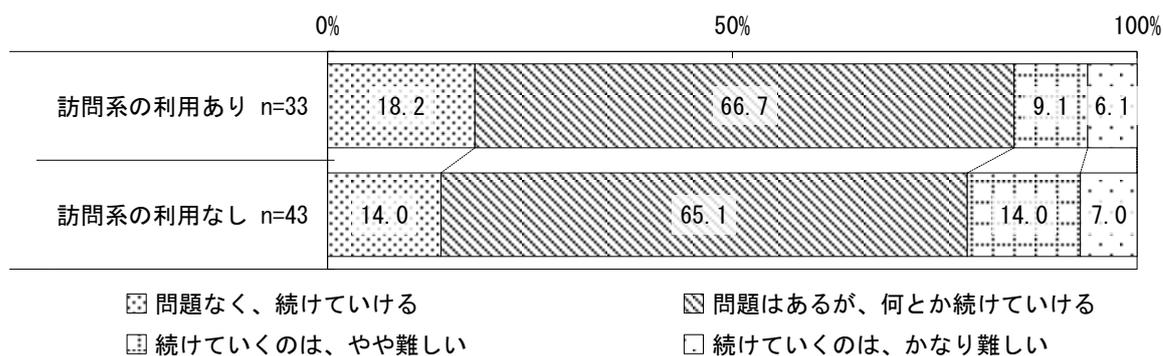
- ☑ 問題なく、続けていける
- ☑ 問題はあるが、何とか続けていける
- ☑ 続けていくのは、やや難しい
- ☑ 続けていくのは、かなり難しい
- ☑ 主な介護者に確認しないと、わからない
- ☐ 無回答

(12) サービス利用の組み合わせと就労継続の見込み

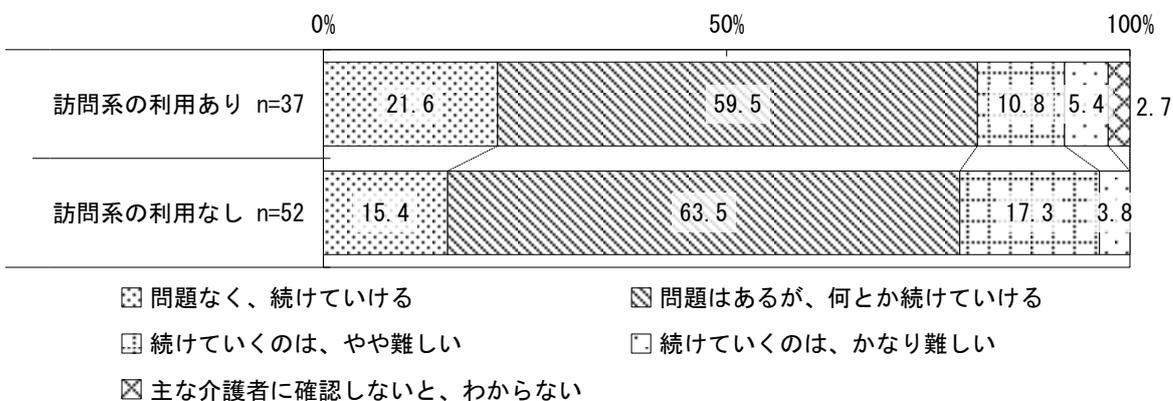
介護者の就労継続の見込みを、①要介護2以上、②認知症自立度Ⅱ以上に分けて、サービス利用の組み合わせ別にみると、①要介護2以上、②認知症自立度Ⅱ以上ともに「問題なく、続けていける」は<訪問系の利用あり>が高く、「問題はあるが、何とか続けていける」を加えた<継続可能>も同様に高くなっています。

図表2-42 サービス利用の組み合わせと就労継続見込み

① 要介護2以上



② 認知症自立度Ⅱ以上



※無回答を除く

Ⅲ 調査結果のまとめと考察

1) 世帯類型にかかわらず在宅生活が継続できる支援（在宅生活の限界点を高める支援）

[調査結果のまとめ]

- 世帯類型をみると、単身世帯および夫婦のみ世帯が40%以上あり、単身世帯で要介護5はいないものの、要介護3以上は少なからずいる（3・4頁）
- サービス利用の組み合わせでは、要介護度の重度化したがい訪問系または訪問系を含む組み合わせが高くなる傾向にあり、特に単身世帯ではその傾向が顕著に表れている（9～11頁）
- 施設等への入所・入居検討状況をサービス利用の組み合わせでみると、訪問系のみを利用している場合は、「入所・入居は検討していない」が高い（14・15頁）
- また、訪問系サービスを頻回に利用している場合も「入所・入居は検討していない」が高い（16頁）
- 単身世帯の場合、近居の家族・親族による介護を受けていることがわかるが、家族等の介護なしで在宅生活を続けているケースもある（22・23頁）

[考 察]

- 要介護者の中には単身世帯や夫婦のみ世帯の人が多く見られます。要介護者本人の生活の質の向上と、近居の家族等介護者、同居の配偶者の負担を軽減するため訪問系サービスの整備と利用を促進する必要があります。特に、重度の人の在宅生活を24時間体制で支える仕組みとして定期巡回・随時対応型訪問介護看護や夜間訪問介護などの整備と普及を進めていくことが効果的と考えます。
- また、訪問看護など医療的ニーズに対応したサービスの拡充を図る必要があります。これに加えて、在宅における看取りに対応した支援体制の構築も検討していく必要があります。
- 単身世帯や夫婦のみ世帯の増加により、たとえ介護が必要でなくても、日常生活を送る上で、買い物、通院などさまざまな不自由を感じている人がいると推測されます。地域住民による見守りなど住民主体の支援体制を確立していく必要があります。

2) 介護者の負担軽減を念頭に置いた支援

[調査結果のまとめ]

- 認知症自立度別にサービス利用の組み合わせをみると、認知症の重度化にしたがい通所系・短期系のみが高くなる傾向があり、介護者のレスパイトケアとしての利用実態がみてとれる(12頁)
- 夫婦のみ世帯では、70代以上の介護者が60%以上を占めている(24頁)
- 主な介護者が不安に感じている介護等で多いのは「認知症状への対応」と「(日中・夜間)の排泄」であり、軽度の場合は「外出の付き添い、送迎等」が多い(26・28・29頁)
- 訪問系サービスを頻回に利用している場合は、「(日中・夜間)の排泄」「屋内の移乗・移動」などの不安が軽減される傾向がある(34・35頁)
- 介護者が就労している場合、訪問系サービスの利用ありでは、就労の継続可能性が高くなっている(45頁)

[考 察]

- 家族介護者にとって「認知症状への対応」と「(日中・夜間)の排泄」が大きな介護不安となっています。こうした介護者の精神的・肉体的負担を軽減することが、在宅介護の限界点を高めることにつながると考えられます。訪問系サービスの利用を中心に据え、介護者のレスパイトケアに焦点を当てた通所系・短期系のサービスを組み合わせたサービス利用を促進していく必要があります。
- したがって、「通い」を中心として、要介護者の様態や希望に応じて随時「訪問」や「泊まり」を組み合わせ提供する小規模多機能型居宅介護の拡充を進めるとともに、医療機関から移行した在宅療養者の医療的ケアなども想定し、看護小規模多機能型居宅介護の整備と普及も進めていくことが必要と考えます。
- 看取りまで視野に入れた在宅生活の継続を実現するためには、在宅医療と介護の多職種連携をさらに進めていく必要があります。
- また、家族介護者の「認知症状への対応」の介護不安に対しては、地域包括支援センターを中心に進められている認知症施策の様々な取り組みを今後も推進していく必要があります。

3) 仕事と介護の両立支援

[調査結果のまとめ]

- 主な介護者の40%以上がフルタイムまたはパートタイムで就労している (41頁)
- 就労している介護者の多くは、労働時間の調整や休暇を取得しながら仕事と介護の両立を図っている (42・43頁)
- 就労継続の見込みについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が60%以上を占めている (44頁)
- 就労継続の見込みについて「問題なく、続けていける」と回答した介護者は、労働時間を調整しながら働いていたり、特に調整を行っていない場合が多く、比較的短時間で軽易な介護であることが想像できる。一方、継続困難と回答した介護者は休暇の取得をする場合が多く、介護に要する時間が長いことがうかがわれる (43頁)
- 就労継続が困難な割合が高いほど、介護不安は大きい (40頁)

[考 察]

- 介護者が仕事と介護を両立できるか否かは、要介護者の在宅生活の継続に関わる大きな要素です。就労継続が困難と考えている人はもとより、「問題はあるが、何とか続けていける」と回答した就労中の介護者をいかに支援するかが課題と考えます。
- 介護者の多様な就労状況や家庭環境に対応した柔軟なサービス（前述の定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護および看護小規模多機能型居宅介護などのサービス）提供体制を整えることが重要です。
- また、企業や官公庁等は、介護休業等の両立支援制度を導入するだけでなく、働き方の見直しを通じ、介護等の時間的制約を持ちながら働くことが可能な職場づくりを日頃から進めておくことが望ましい。こうした職場づくりが、介護に直面した社員等の離職防止に効果的であると考えます。

基本調査項目のみ 在宅介護実態調査 調査票

被保険者番号

【A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】(複数選択可)

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他

A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

1. ない
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日以下少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80歳以上
9. わからない

問4 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

1. 主な介護者が転職した
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた(家族・親族は問い)
6. わからない

※ 自営業や臨時・非正規のお仕事を辞めた方を含みます。

● **ここから再び、全員に調査してください。**

問5 現時点での、施設等への入所・入居の様状について、ご回答ください(1つを選択)

1. 入所・入居は検討していない
2. 入所・入居を検討している
3. すでに入所・入居申し込みをしている

※「施設等」とは、特別養老ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特設施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養老ホームを指します。

● 問2で「2.」～「5.」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方にB票への回答・ご記入をお願いしてください。

● 「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人(調査対象者の方)にご回答・ご記入をお願いしていただき、ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です。

【資料】 調査票

B票 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

※ 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の添付する書きに○を囲み願います。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

1. フルタイムで働いている
2. パートタイムで働いている
3. 働いていない
4. 主な介護者に確認しないと、わからない

※「パートタイム」とは、「週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者よりも強い方が該当します。いわゆるアルバイト、「転勤」、「臨時社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数からフルタイム、「パートタイム」のいずれかを適宜選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか(複数選択可)

1. 情に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しなから、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていくそうですか(1つを選択)

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあがるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

● **ここから再び、全員の方にお伺いします。**

問4 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

(身体介護)

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助(食べる時)
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ(洗髪・着替え等)
6. 衣服の着脱
7. 屋内の移動・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症ケアへの対応(生活援助)
11. 医療面での対応(投薬管理、ケアマネ等)
12. 食事の準備(調理等)
13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
15. その他
16. 不安に感じていることは、情にない
17. 主な介護者に確認しないと、わからない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

在宅介護実態調査報告書

平成29年4月

発行 桑名市

編集 保健福祉部 介護高齢課

〒511-8601

桑名市中央町二丁目37番地

TEL 0594-24-5104

FAX 0594-27-3273